

東洋療法いわて

会報第51号

令和元年5月1日

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会

《写真コーナー》



平成 30 年度定時総会(5月6日)
佐々木 実会長



法人化 40 周年式典・祝賀会(5月6日)



第 1 回生涯研修会(6月3日)



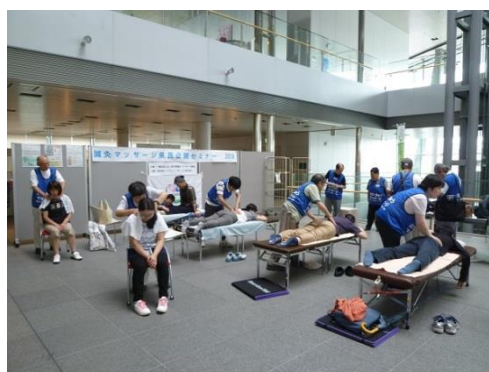
第 1 回生涯研修会(6月3日)
協同組合 堀 昌弘理事長



東鍼連宮城大会学術発表者(7月2日)
藤沼敦子さん(左から2人目)



鍼灸マッサージ県民公開セミナー(8月5日)



鍼灸マッサージ県民公開セミナー(8月5日)



鍼灸マッサージ県民公開セミナー(8月5日)
電気温灸器による施術



健康保持のための研修会(9月9日)
水出 靖先生



健康保持のための研修会(9月9日)
五十肩の鍼施術



東鍼連保険部研修会(11月25日)
若山 利夫先生



東鍼連保険部研修会(11月25日)
往田 和章先生



第8回生涯研修会(2月17日)



第8回生涯研修会(2月17日)
美顔マッサージ

巻頭言



一般社団法人 岩手県鍼灸マッサージ師会
会長 佐々木 実

平成 30 年度も残り 1 週間を切りました。今年の冬は暖冬で、雪と寒さに悩まされる北国にとってはとても過ごしやすい冬でした。

さて、この 1 年を振り返りますと、何と言っても 1 月 1 日から始まった保険受領委任払い制度の実施ということになるでしょうか。

当会でもその制度改革に対応して多くの時間をさいて会員への説明を行ってきました。岩手では協会健保を除く国保と高期高齢が 1 月 1 日から新制度に加わっています。私たちにとっては大きな一歩といえます。

また、30 年 4 月からは鍼灸師も機能訓練指導員として認められることとなり、これまたうれしいニュースでした。これで私たちが切望していた二つのことがかなったこととなります。いよいよ来年度からは残りの一つ、「無免許問題」についての何らかの方策を期待したいものです。

さらに慶事は続きます。前副理事長の小澤信男さんが春の褒章で黄綬褒章を受章されました。小澤先生は 20 歳で結婚。しかし、その頃より網膜剥離で失明。奥様を実家においての盲学校寄宿舎生活で鍼灸マッサージの免許を取得されました。

その後、郷里金ヶ崎町で治療院を開き家計を支え続けました。傍ら、視覚障害者協会の役員、鍼灸マッサージ師会の理事を長年歴任されました。また、地域住民への無料マッサージを月 1 回 40 年以上に亘って行うなどの活動が評価されたものでした。心よりお祝い申し上げます。

東日本大震災から 8 年、6 年 3 ヶ月に亘って行って来た釜石小川地区仮設住宅入居者鍼灸マッサージボランティアも今年度末をもって終了となりました。仮設住宅が無くなるためです。この間、196 回の開催、335 人の施術者派遣、1,797 人の施術など大きな成果を挙げて終了となりました。ご協力いただいた会員の皆様、本当にご苦労様でした。

さて、次年度は元号も代わり、10 月からは消費税の値上げも予定されるなど変化の大きい年になりそうです。

当会でも会費の値上げなどが予定されております。そして来年度こそ「無免許問題」への何らかの指針がなされることを祈念してペンを置きます。

小澤信男さん黄綬褒章受章！！

会長 佐々木 実

当会顧問、前副理事長の小澤信男さんが春の褒章で黄綬褒章を受章されました。当会では7月22日（日）、岩手県視覚障害者福祉協会と合同で祝賀会を催しましたし、奥州支部でも8月に祝う会を開いたとのこと。また、日頃小澤さんにお世話になっている方々が地元金ヶ崎町で盛大に祝賀会を催しました。

会員一同、心よりお祝い申し上げます。

小澤信男さんの黄綬褒章受賞祝賀会に参加して

平成30年8月19日金ヶ崎町の「ホテル緑の郷」で午後3時から当会顧問小澤信男さんの黄綬褒章受章祝賀会が盛大に行われました。余談になりますが、この「ホテル緑の郷」というのは、平成12年の岩手県師会総会を行った「サンピア金ヶ崎」で、経営者が代わったためホテル名も変えたとのこと。

さて、この祝賀会は小澤さんが住む藤巻自治会が中心になって企画したもので、午後3時から行われました。

出席者は金ヶ崎町長、金ヶ崎町議会議長、教育長、町議会議員、金ヶ崎町身体障害者協会長、岩手県視福協、視福協奥州支部長、業界からは岩手県鍼灸マッサージ師会を代表して私、奥州支部長の千田さんと小野田サヨ子さん、小澤さんの同級生、地域の人たち、大勢の親戚等々その数100名。

受賞者入場。小澤さんは燕尾服、奥様は着物姿で拍手に迎えられ高砂の席へ。町長、議長、教育長、身障協会長の祝辞。小沢一郎衆議院議員はじめ、橋本聖子、片山さつきなどの参議院議員、岩手県知事等々著名な方々からの祝電（当会も「会員一同」で打ちました）。

親戚（お孫さんたち）、自治会、実行委員会等からの記念品や花束の贈呈。乾杯の後は祝謡、祝舞、カラオケ、日舞と舞台芸。5時半の御開きまで盛り上がりっぱなし。小澤さんの奥様も日舞を二度舞われました。

小澤さんは中学生の時に父親を水難事故で亡くし、その後は父親代わりとなり農業や出稼ぎ。二十歳で妻トヨ子さんと結婚。しかし、その年に無理がたたって網膜剥離で失明。

「私はまだ小さくてよく分からなかったのですが、信男さんがうちに来て、自分はどうなってしまったし、姉と別れさせてほしいと父親に言っていたのをうっすらと覚えています。『まあまあ、そんなこと言わないで』と父が信男さんをなだめていたことを記憶しています」とトヨ子さんの弟さん。

小澤さんは長女が生まれたことを機に一念発起。盲学校に入り、点字を学び、あはきの免許を取得。

昭和47年6月から現在の金ヶ崎町藤巻地区に開業。休みは日曜の午後だけ。その後も地域の人たちを無料で施術するというボランティアを今なお続けておられるとか。本当に頭が下がります。

また、視覚障害者協会にあっては支部長や理事を長年務められ、業界にあっては副理事長という重責を歴任され、多くの視覚障害者や業界人を世話していただきました。

私と妻とで小澤さんの推薦文を書く時、役員歴を書く欄に収まり切れなくて苦労しました。それだけ多くの役職をこなし、障害者協会、業界を導いてこられたのです。

飲みながら町長さんはじめ色々な人と話をしましたが、皆さん異口同音に、「中途失明にも負けずによく頑張った。しかも自分のことだけでなく家族を立派に支え、地域のためにも貢献された。障害を負いながらここまで頑張ったのはすごい。なかなか出来ることではない。この度の黄綬褒章受賞は、本当に家族、親戚、地域の誇りだ！」と話しておられました。

褒章推薦者としてスピーチを求められましたので、僭越ながら私が業界における小澤さんの貢献度やみんなに慕われている人柄などを話させていただきました。

祝賀会を通して感じたことは、小澤さんがいかに地域の皆さんに愛され、感謝されているかということです。月一度の日曜の藤巻地区での無料施術を50年近くも続けておられるのです。

この度は来賓ということで参加させていただきましたが、本当に心温まる良い会であったと思っております。そして、当会から小澤さんを褒章に推薦して本当によかったと思って帰って参りました。小澤さんにはまだまだお元気で、私たちを導いていただきたいと思います。この度は本当におめでとうございます。

目次

写真コーナー

巻頭言	会長 佐々木 実
小澤信男さん黄綬褒章受章!!	会長 佐々木 実

平成 30 年度活動報告

総務部報告	総務部長 古舘 吉弘
平成 30 年度庶務日誌	
平成 30 年度定時総会報告	

会長会務報告	会長 佐々木 実
全国代議員総会等報告	
全国都道府県師会長会議報告	
東鍼連師会長会議報告	

学術部報告	学術部長 佐藤 明
事業部報告	事業部長 舘下 正則
保険部長報告	保険部長 袖林 広正法
組織強化部報告	組織強化部長 佐藤 茂
健康づくり委員会報告	委員長 古水 健吾
東洋療法推進大会 I N鹿児島報告	一関支部 伊藤 庸一
県民公開セミナー報告	盛岡支部 藤沼 敦子
東鍼連学術大会宮城大会報告	盛岡支部 村上 晃
東鍼連福島交流会に参加して	釜石支部 佐々木 きみ子
釜石ボランティア報告	釜石支部 佐々木 真樹
災害コーディネイト研修会に参加して	盛岡支部 藤沼 敦子

投稿欄

大阪へ里帰りして	盛岡支部 袖林 正美
----------------	------------

各支部活動報告

大船渡支部	古水 健吾
宮古・釜石支部	佐々木 きみ子
一関支部	舘下 正則
奥州支部	千田 節雄
花北・遠野支部	高橋 則夫
盛岡支部	佐藤 明
二戸支部	古舘 吉弘
東鍼連学術発表	盛岡支部 藤沼 敦子
編集後記	広報部長 松下 優子

奥付

平成 30 年度活動報告

総務部報告

総務部長 古館 吉弘

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会平成 30 年度総務日誌

- 4 月 1 日 盛岡医療福祉専門学校入学式に佐々木会長出席（ホテル東日本）
- 4 月 6 日 盛岡保健所と二戸保健所に違法と思われるチラシを送り、無免許者取り締まりを依頼する
- 4 月 11 日 法人市民税納入
- 4 月 12 日 法人県民税納入
- 4 月 22 日 第 1 回監査会並びに第 1 回執行部会議開催（アイーナ）
- 5 月 6 日 第 1 回理事会並びに第 77 回定時総会及び臨時理事会及び法人認可 40 周年記念式典並びに祝賀会開催（岩手教育会館）
- 5 月 21 日 法務局に役員変更届を提出し受理される
- 5 月 27、28 日 全鍼代議員総会、協同組合総代会、あはき連盟総会、東鍼連第 3 回理事会に佐々木会長出席（東京）
- 6 月 15 日 盛岡市と「生活保護法による医療扶助運営要領の一部改正に伴う施術（あん摩・マッサージ、はり・きゅう）に関する変更協定書」を交わす
- 7 月 1、2 日 東鍼連宮城大会 付添含め 22 名参加（仙台）
- 7 月 17 日 岩手県と「生活保護法による医療扶助及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律による医療支援給付の施術（あん摩・マッサージ、鍼・灸）に関する変更協定書」を交わす
- 7 月 22 日 小澤信男さん黄綬褒章受章祝賀会を岩手県視福協会、視覚支援学校同窓会 3 団体合同で開催（盛岡市総合福祉センター）
- 7 月 29 日 第 2 回執行部会議開催（マッサージセンター）
- 8 月 1 日 岩手県鍼灸マッサージ保険協会と岩手県労働基準局とで「労災保険あん摩マッサージ指圧師、鍼師及び灸師施術料金算定基準協定書」を交わす
- 8 月 5 日 第 3 回鍼灸マッサージ県民公開セミナー開催（アイーナ）
- 8 月 19 日 金ヶ崎町の「ホテル緑の郷」で当会顧問小澤信男さんの黄綬褒章受章祝賀会に佐々木会長出席
- 9 月 9 日 三団体研修会 盛岡視覚支援学校
- 9 月 29、30 日 日マ会東北研修会（当会協賛）ホテル紫苑
- 10 月 1 日 盛岡市と「生活保護法による医療扶助の施術（あん摩・マッサージ・鍼・灸）に関する全部変更協定書」を交わす
- 10 月 14、15 日 東洋療法推進大会 in 鹿児島 佐々木会長と伊藤庸一会員参加
- 10 月 28 日 第 2 回理事会開催（電子的方法による）
- 10 月 31 日 岩手日日新聞に無免許者取り締まりの資料を送付する
- 11 月 10 日～11 日 協同組合保険説明会、全国都道府県師会長会議、全鍼連盟集会（東京）
佐々木会長出席

- 11月18日 東鍼連師会長会議開催（仙台）佐々木会長出席
11月24日 東鍼連保険部長会議 盛岡アイーナ 袖林保険部長、佐々木会長、佐藤明盛岡
支部長出席
31年1月12日 第3回執行部会議開催（花巻松倉温泉ホテル風の季（とき））
2月3日 視覚障がい者団体連絡協議会会議開催 佐々木会長出席（マッサージセンター）
3月14日 盛岡医療福祉専門学校卒業式に佐藤明副会長出席（ホテル東日本）
3月17日 第3回理事会開催（アイーナ）

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会平成30年度第1回理事会、並びに第77回定時総会、臨時理事会、法人認可40周年記念式典及び祝賀会報告

総会は、風薫る5月6日（連休最終日）に行われました。場所は新築されたばかりの（まだオープン前の）「岩手県教育会館」でした。廊下も広く、新築の香りがぷんぷん。

9時半より第1回理事会が開催され、第1号議案の会長会務報告から、第2号の平成29年度各部事業報告、第3号議案平成29年度財務報告と監査報告が行われ、次いで第4号議案役員改選についての議案などがすべて承認されました。

引き続き総会が行われ、まず佐々木会長の挨拶。

（会長挨拶）「お早うございます。連休最後の日、非常に天気も良いのでどこかに出かけたいと思う人もいるとは思いますが、そんななか朝早くからお集まり頂きありがとうございます。まず最初におめでたい話題から入りたいと思います。

当会顧問の小澤信男さんがこの度春の褒賞で黄綬褒章を受章されました。当会では、平成23年の村上直人さんに続いて5人目ということになります。古い人たちはご存じだと思いますが、松田宋二郎さん、加藤敏勝さん、佐藤種二さん、村上直人さん、小澤信男さんです。なお、叙勲は菅野長治さんと、石川文治さんです。また、当会推薦の褒賞叙勲者としては平成16年の石川文治先生以来14年ぶりのこととなります。

一昨年厚労大臣表彰を受けた小澤さんですけれども、これは一気呵成に行くしかないと昨年の6月に褒章の推薦文を出しておきました。秋は残念ながら漏れてしまいました。見事この春受賞の運びとなりました。今月15日に皇居に行き天皇陛下に拝謁されるとのことです。当会としては祝賀会を視福協会と合同で7月22日に福祉大会が終わった後に行う計画を立てています。どうぞ多くの参加をお待ちしています。

次に、平成29年度を振り返りますと、なんと言っても東鍼連岩手大会の大成功ということに尽きるのではないかと思います。参加者も前回よりも多かったですし、非常に行き届いたおもてなしだったと、とても高い評価をいただきました。

一昨年からの、県師会の重点事業と言うことで、障がい者国体の鍼灸マッサージボランティア、東鍼連平泉交流会、東鍼連岩手大会、県民公開セミナーなどをやってきましたが、県民公開セミナーはまだ続きますけど、残り三つの事業は大成功のうちに終わることができました。

また、公益目的支出計画も3月31日をもって県の方から終了し受理しましたという報告書が届いております。いよいよ今年度からは一般法人としての活動になります。

とりあえず大きな行事は終わりましたが、まだまだ我々を取り巻く状況は厳しく問題も山積しております。これからも皆さんと一緒に考えながら進めて行きたいと思っておりますので、ど

うぞ宜しくお願いいたします」

(以下は議事録からの抜粋)

開会に先立ち、古館吉弘総務部長から会員数 107 名中 75 名の出席 (内委任状 38 名)、欠席 32 名であることから、定款第 17 条を満たしており定時総会が成立することが告げられた。

佐藤明副会長の開会の言葉、佐々木実会長挨拶、小澤信男顧問の挨拶の後、議事に入った。

議長と議事録人、議事録署名人は執行部一任を受け、出席理事より議長に古水健吾氏、議事録人に井口力氏、議事録署名人には佐々木忠久氏と佐藤茂氏が選任された

議事

第 1 号議案 平成 29 年度会長会務報告 (佐々木実会長)

- ・免許保有証を申請してほしい (新しい制度も始まり免許の確認について厳しくなっている)
- ・鍼灸師が 4 月から機能訓練指導員として認められる事となった。
- ・保険の委任払いの制度が 10 月から実施される予定だがまだ詳しいことは未定。料金については施術料を上げて往療料を下げるといった改正が行われる模様だ。
- ・昨年度から無免許者の取り締まりに本腰を入れて取り組んでいる。県や保健所に協力を依頼しているが、取り締まる法律がないということで効果は上がっていない。しかしながら、あはき法改正や取り締まり法が出来るまで野放しにしておくわけにはいかないの、これからは無免許者と紛らわしい看板や誇大広告業者は摘発していきたいと思っている。

高橋久喜 とにかく無免許者の横暴は目を覆うものがある。取り締まりには頑張してほしい。

会長 違反広告と思われるチラシや広告を見つけたら送ってほしい。

高橋久喜 19 条裁判について教えてほしい。

会長 仙台地裁での口頭弁論は第 7 回まで行われた。結審は来年になるだろうと言われている。業界では全鍼が国の支持をはっきりと打ち出し、東北でも宮城と福島は態度を保留しているが、他の団体は国を支援するという事で一致している。

第 2 号議案 平成 29 年各部事業報告とその承認

- ・総務部、庶務部、学術部、事業部、保険部、組織強化部、広報部、健康づくり委員会、無免許対策委員会より順次報告があり、全会一致で承認された。(別紙資料参照)

第 3 号議案 平成 29 年度収支決算報告並びに、監査報告とその承認

- ・財務部長より平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの報告があり (別紙資料)、続いて監事から帳簿や領収書綴り等にも誤りがないことを認めるとの報告があった。
- ・第 3 号議案は全会一致で承認された。

第 4 号議案 岩手県師会災害対策委員会設置と、危機管理基本規定制定について

会長から、

- ・何か災害が発生した時に、速やかに対応したり、現地にボランティアを派遣したり出来るように規則を作り災害対策委員会を創設した。
- ・規則については既に 3 月の理事会で承認され、今年度 4 月 1 日からスタートとなっている。
- ・委員会の委員長は藤沼敦子氏にお願いし、他に米澤真奈美氏、朝橋正美氏、それに執行部が加わった形でスタートした。

との説明があった。

第 5 号議案 平成 30 年度各部事業計画報告

- ・総務部、庶務部、学術部、事業部、保険部、組織強化部、広報部、健康づくり委員会、無免許対策委員会より順次報告があった。(別紙資料参照)

第6号議案 平成30年度財務部予算報告

- ・財務部長より説明があった(別紙資料)

第7号議案 役員改選について

- ・村上直人選挙管理委員長より13名の立候補者の発表と選挙方法の説明がなされた。
- ・その後投票が行われ、結果は全ての立候補者が過半数に達し当選となった。それを受け理事全員が就任を承諾した。

(選挙結果) 総投票数 36、有効投票数 32、無効 4

信任票 佐々木実 32、佐藤明 31、古舘吉弘 32、山本英典 32、袖林広正法 32、井口力 31、佐藤茂 32、松下優子 32、舘下正則 32、高橋則夫 31、古水健吾 32、千田節雄 32、佐々木きみ子 32

第8号議案 その他

- ・東鍼連宮城大会の参加者を募った(参加者は5月24日までに会長に届けること)。
- ・学術部長より、6月3日の第1回学術研修会の説明と参加募集があった。
- ・保険部長より、保険取扱数取りまとめ協力と、保険不支給となった事例の説明があった。

大澤睦子 東鍼連宮城大会の詳しいことを教えてほしい。

会長 一度「県師会情報」で流しているが、もう一度流すことにする。

(以上)

続いて臨時理事会が行われ、当会代表理事(会長)に佐々木実氏が再任され、会長の指名により以下の役員が決まった。

会長 佐々木実、副会長 佐藤明(学術部長)・古舘吉弘(総務部長)・山本英典(財務部長)、保険部長 袖林広正法、庶務部長 井口力、事業部長 舘下正則、組織強化部長 佐藤茂、広報部長 松下優子

昼からは、法人認可40周年記念式典が岩手県議会議員並びに当会顧問の神崎浩之先生を来賓にお招きして盛大に行われました。

神崎浩之先生の祝辞の後、昨年度の学術研修会修了者(19名)に修了証書が送られました。また、長年の県師会への功労として会長賞が16名に、感謝状として会員外の古水スエ子さんに贈られました。

式典後は祝賀会です。今回は会長の知り合いで、民謡で全国的に有名な八幡平市立平笠小学校5年生の日戸楓乃(ひのと かの)さんと、これまた津軽三味線で有名な盛岡中央高校2年生の佐藤竜雅(さとう りゅうが)さんを招き、民謡と三味線を披露して頂き、40周年に華を添えて頂きました。(出席者も一緒に歌うなど楽しい祝賀会となりました)

以上、忙しい一日ではありましたが、楽しく充実した一日でもありました。

会長会務報告

会長 佐々木 実

全鍼代議員総会等報告

5月27日、28日と東京「ホテルルポール麹町」で行われた全鍼代議員総会を始めとする5つの会議に出席して参りましたので、その報告を簡単にいたします。

まず27日午後1時から始まった代議員総会ですが、私はこれまで十数年この会議に出席して来ましたが、今年ほど執行部に対して異議や批判も少なく、それどころか執行部の行動に対して称賛の声がしきりの会議となりました。

というのは、これまで私たちが改善目標にしてきた三つの事柄、即ち、鍼灸師を機能訓練指導員に、保険の委任払い制度化、無免許取り締まりがそれぞれ具体化しつつあるということです。鍼灸師の機能訓練指導員認可は4月から実現。保険制度改革も10月からスタート。無免許を含む広告制限の緩和や、あはき等法改正も視野に入れた委員会が今年度からスタートしたことなどです。

これらに関しては、今後に期待する声が多く上がり、29年度の活動報告・決算、30年度の活動計画・予算は異議なく承認されました。

以下に要点のみ記します。

- Q. (岩手) 従業員会員にも月刊東洋療法を届けてほしい。なぜなら雇用主と従業員の使用文字が違うことがあるので。
- A. (広報局) 財政面とも相談したい。いずれ全鍼HPをリニューアルして、直接ダウンロード出来るようにするなど月刊東洋療法の配布については検討していきたい。
- Q. (岩手、沖縄) 保険制度が変わり、医師への報告書提出や領収書作成など視覚障害者にとって不利にならないよう代筆サービスなど考えてほしい。(全鍼単独でなく、他の団体と合同でもよい)
- A. (視覚障害局) 自立支援制度が使えないかなど他団体との間で作っている「19条を守る協議会」の中で話し合っていきたい。
- (財務局) 昨年度会費を値上げさせていただいたので、年度当初の銀行からの借入金は少なくて済むようになり、それによって銀行より利子の少ない協同組合から借り入れることにした。
- Q. (宮城) あはき法改正の目途について伺いたい。
- A. (会長) 今年度中に広告制限緩和についてのガイドラインを作る予定。その中で無免許取り締まりや法改正についても審議していきたい。
- Q. (岡山) 業界一本化の道筋を立ててほしい。
- A. (法制局) 難しい問題だと思うが、まずは出来ることからということで研修会や大会など一緒に出来ることから始めていきたいと考えている。
- ・この件に関しては、「それぞれの思惑があるので統一は慎重に」とか、「無理をしなくともいい」という意見が出されました。
- Q. (京都) 福岡県師会問題はどのようになっているのか？
- A. (会長) 10月の選挙管理人提出までには前向きの解答を出したいと思っている。
- Q. (京都) レセコンソフト開発に力を入れてほしい。
- A. (保険局) 今の保険局の人数ではとてもそこには手をつけられない。協同組合にも話を

しているが、採算面もあり難しいし、公益事業となるので厚労省との検討も必要。が、他師会で使っているソフトの紹介なら出来る。

Q. (福島) 自賠責保険の保険者に対するマニュアルを作ってほしい。

A. (保険局) 人手が足りず賠償保険や労災保険にまで手が回らないというのが現状だ。もっと人員を増やすように理事会に諮ってこれらにも力を入れていきたい。

Q. (広島) 全鍼 HP に会員の治療資料を載せ、それを蓄積していったらどうか？

A. (広報局) 検討していきたい。

会議は珍しく予定より 15 分も早く 16 時 45 分に終了となりました。

午後 8 時から 11 時まで東鍼連師会長会議が会長宿泊部屋で行われました。

東鍼連理事会の報告をいたします。

ここでは宮城県大会の内容が説明され、各県からの出席者数も発表になりました。それによると岩手は現時点で過去最高の 21 人参加。宿泊者数も 20 名と主催県宮城よりも多い人数でした。

また、東鍼連の旗の図柄も検討され、東北 6 県に五星のマークがかかったもので一致しました。宮城大会から用いられることとなります。

来年の福島大会の場所についてや、やり方についての意見が交わされましたが、場所については 7 月の大会までに決めるとのこと。また臨床体験発表テーマは「スポーツ鍼灸マッサージ」ということの発表がありました。

28 日 9 時からの全鍼連盟総会では、鍼灸マッサージを考える国会議員の会より衛藤晟一、伊吹文明、片山さつきなどの挨拶、二階敏弘最高顧問のメッセージなどが読み上げられました。挨拶を聞いていて感じたことは、議員の方々は本当に鍼灸マッサージ師や柔整師の置かれている立場や法律について詳しく知っておられるということです。保険制度改革、無免許問題、法改正、業界団体間の微妙なずれなどをよく知っておられます。その上で、力を貸そうという体制が整っていることは私たちにとっては力強いことです。

今後一層の活動を進めて行くためにも資金が必要とのことで、各県師会会員数の半数以上の年会費を納めることを決議し終了しました。

10 時 30 分からは協同組合総代会が行われました。

29 年度は売上高が少し落ちたものの、決算は黒字を維持することができたとの報告があり、29 年度の活動報告・決算、30 年度の活動計画・予算は満場一致で承認されました。

今年のもう一つの企画として、12 時から 2 時半まで、新しくスタートする保険制度についての説明会がありました。これについては今後そのつど情報を流して行くつもりですので詳しい記述は避けませんが、おおよそ次のようなものです。

- ・ 6 月から料金が改正され、往療料の区分が変更になった。
- ・ 7 月から保険取扱い登録制度が始まる。
- ・ 10 月から医師への同意書が変わる。報告書や領収書発行も始まる。
- ・ 来年 1 月から統一様式の保険申請書が発行される。

- ・ 2020 年 4 月より施術管理者研修実施
- ・ 2020 年 6 月往療料包括化
- ・ 2021 年取扱い指定更新制

報告は以上のようになりますが、さすがに二日間で 5 つの会議は体力を消耗し疲れました。しかし、今回の会議は私たちに希望を持たせてくれる内容が多かっただけに、帰りの足取りはいつもより軽かったです。

会長が代わり、全鍼は新しい一歩を歩み出したと実感出来る会議でした。

協同組合研修会並びに全鍼師会長会議報告

11 月 10 日（土）午前 11 時から午後 4 時 30 分まで東京西新宿の「BIZ 新宿」にて協同組合研修会が開かれました。出席者は全国から 89 名。東北では青森県を除いて全県が出席していました。

内容は、講演一つ目、厚生労働省保険局医療課保健医療企画調査室長の樋口氏の、「長寿、少子化、医療費増加の社会で今後どのようなことが考えられるか？国はどのように動こうとしているか」というものでした。

その中で、来年から始まるあはき受領委任払い実施は画期的なことであるとの説明でした。

二つ目の講演は協同組合堀理事長の医療過誤についてでした。昨年度の事故内訳では、骨折 10・気胸 8・火傷 10・折鍼 3 であった。今年度は 10 月末現在で骨折 4・気胸 10・火傷 5・折鍼 1 となっている。

高齢者施術での骨折、灸頭鍼での火傷事故、糖尿病患者への鍼灸施術やホットパックでの火傷や化膿等が増えていると説明がありました。そのためにも全鍼 110 番への加入が必須です。症状悪化を理由にゆすりたかりもあるとか。

また、メットライフの生命保険は団体加入割引があるので（35 パーセント）多くの人に入ってほしいとのことでした。

講演三つ目は、往田保険局長による受領委任払い改正説明でした。

- ・ 岩手では 33 市町村全部と後期高齢が 1 月 1 日から一斉に受領委任払いに移行する。健保組合だけが移行不参加。
- ・ 12 月にこれまでより詳しい「保険取扱い Q&A」が出される
- ・ 申請書は弱視者の人たちは A4 用紙でなく版の大きい A3 用紙を使っても良いこと
- ・ その他、施術報告書の書き方や出すタイミング、同意書を含め医師への対応、今後の課題等が話されました。

なお、保険に関する個別の質問については私の所まで直接連絡を下さい。

翌 11 月 11 日（日）は午前 11 時から午後 4 時まで東京四谷三丁目の貸会議室で全鍼師会長会議と連盟集会がありました。

ほとんどの師会長が参加していましたが、ここでも青森県は欠席でした。

内容は上半期の行事や決算報告、下半期の行事についてが主です。以下に重要事項を記します。

（事業局）東洋療法推進大会 IN 鹿児島は予想を 100 人も上回る 402 人の参加であった。

来年は 10 月 20 日・21 日（日、月）「新横浜プリンスホテル」で行われる。

- (視覚障害局) ラビットから音声メジャーと角度計が出されている。27,000 円である。
- (総務) 10 月末現在で会員数が 238 人減って 8412 人となった。免許保有証はこれまで 11,410 人余りが取得しているが、内、全鍼会員が 5,632 人、全鍼を通して申し込んだ人が 7,162 人であった。
- (スポーツ鍼灸マッサージ委員会) 東京オリンピック・パラリンピック協会から選手村での鍼・マッサージボランティア協力要請があった。経験歴 5 年以上の人で英語等の語学力のある人。9 時間程度の業務で交通費は出ないがユニホームや食事は出る。応募は 1 月 7 日から受け付け、2 月に書類選考と面談、選ばれた人たちは来年秋東京で実践研修がある。どなたか挑戦してみませんか？
- (災害委員会) AMDA と協定を結んだ。これは災害の発生した所に医療チームとして参加している団体で、ここと提携することにより鍼灸マッサージも日当 3,000 円や交通費等の補助を得られるようになった。災害地に向かう人は、全鍼 110 番加入・免許保有証持参が必須となる。
- (保険局) 日本医師会で各県医師会に鍼灸マッサージ保険についてのリーフレットが出されている。そのリーフレットを各県師会にも配布するので、各県の医師会あるいは同意書をお願いしている医師に医師会より届いていない時はお見せ願いたい。

全鍼連盟集会では、

- ・ 保険財政が苦しい中、受領委任払いが達成されたのは国会議員への働きかけなどの運動が実ったもので、議員連盟との関係はこれからも密にして行く。
- ・ そのためには金が必要！会費は増えてはいるが伸び悩んでいる。各県師会会員数の半数分の金額をお願いしたいとのことでした（岩手は会費より拠出し既にノルマを達成）。
- ・ 来年の参議院選挙では保険受領委任払いに大きく力を貸してくれている衛藤晟一氏（全国区）を会として応援して行きたい。

以上が三つの研修会や会議へ出席した報告です。最近は鍼灸マッサージといっても治療ばかりではなく災害支援、スポーツ、介護等々幅も広がり、かつその動きが速いです。情報は随時流しますので、会員の皆さんもしっかりと受け止め、自分にとって何が必要な情報かを確認し対処していただきたいと思います。

最後、堀副理事長の閉会の言葉で、「みなさんどうぞ良いお年を」とありましたが、もうそういう時期なんですね。そして来年は保険受領委任払いが始まり、元号が代わり、消費税が上がり…色々と変化の年になりそうです。しっかりと情報をキャッチし、時代の流れに遅れないようにしましょう。

東鍼連師会長会議報告

東鍼連師会長会議は 11 月 18 日、仙台市荒町市民センター 2 階で 11 時から 3 時まで行われました。出席者は福島県師会の平栗会長が欠席でしたが、福島県は次期東鍼連開催県ということで事務局長と財務局長が出席しており、形として全県出席です。

話し合われた内容を簡単に記します。

1. 東鍼連宮城大会の総括

大会は164人の参加があり、決算も黒字であったと宮城県から報告があり、評価としてはどの県も「交通の便が良くて助かった」、「学術が充実していた」との感想でした。

また、「臨床体験発表希望者がいない」「発表者の固定化」などが秋田、青森、福島、岩手などから出されました。「参加者の固定化が目立つ」というのも各県から上げられていました。

2. 代議員会の懸案事項では、

- ・ 東鍼連の開催曜日は（土、日か日、月か）主催県に任せる。
- ・ フル参加18,000円は動かさず、参加費を5,000円程度にして運営費を捻出するのもよいのでは（岩手）。地元宿泊者が少ないので。
- ・ 東鍼連大会をネットで配信し、それを見た人からも参加費1,000円くらい取ってはどうか？（福島）

これについては実際大会に参加する人が少なくなる可能性があるのでは（実施している北海道師会などの例から）様子を見て、ということになりました。

3. 東鍼連の今後赤字が見込まれる対策として（年19,000円のマイナス）役員行動費54,000円を廃止し、組織強化と保険部助成金は無くするか、低く抑える方向で来年の代議員会に提案することに決まりました。こうすると東鍼連会費の値上げは回避出来るとの意見で一致しました。

4. 来年東鍼連福島大会については、7月7日、8日（日、月）に「リステルいなわしろ」にて行い、参加費はフル参加で18,000円とする。

臨床体験発表は二日目に行い、テーマは「スポーツ鍼灸マッサージメンテナンス」。発表10分、質問5分。

5. 北海道胆振東部地震災害派遣については今回は見送りとなりそうだが、各県で災害が発生した時のボランティア体制を準備しておくことで一致。

6. 来年の東鍼連山形交流会は、ワインの郷南陽市で行う予定。詳しくは後で知らせる。

この他、これまでの行事と財務報告や今後の計画が事務局長と財務局長から説明があり、会議は終了しました。

学術部報告

学術部長 佐藤 明

第1回生涯研修会

平成30年度第1回生涯研修会は、6月3日（日）、アイーナ団体活動室3において開催されました。秋田県師会から3名の参加も含め、会員34名の参加でした。

午前の部の一つ目は、保険受領委任払いが制度化されることによる説明を佐々木実会長にしてもらいました。

二つ目は、7月1日に開催される東鍼連宮城大会の臨床研究発表予行ということで、藤沼敦子さんによる「帯状疱疹痛に対する鍼灸施術」が発表されました。

三つ目は、袖林広正法保険部長による平成29年度保険取扱い結果の報告。

午後は、日本鍼灸マッサージ協同組合理事長の堀昌弘先生による「医療過誤と治療院経営」の講演でした。全鍼110番加入の勧めや、日頃の挨拶の大切さなどためになる話がたくさん

ありました。

第2回生涯研修会（第41回東北鍼灸マッサーヂ学術大会宮城大会）

平成30年7月1日（日）～2日（月）、宮城県「仙台サンプラザホテル」において、第41回学術大会と第71回通常代議員会が開催されました。大会テーマは「はり・きゅう・マッサーヂの新しい地平を探る」。岩手県師会からは会員と付き添いを含め22名の参加がありました。

午前中の会議では、今年度第1回東鍼連理事会並びに第71回通常代議員会に佐々木実会長と古舘吉弘副会長が、学術担当者会議には私佐藤が、保険部長会議には袖林広正法部長、組織強化担当者会議には佐藤茂部長が出席しました。

開会式では、山田幹夫宮城県師会会長兼東鍼連会長から、開催県として歓迎のあいさつがあり、続いて来賓者から祝辞がありました。

開会式後は、臨床研究発表1部となり、座長には渡邊春男宮城県師会学術部長が当たり、各県から4名の先生による臨床研究発表が行われました。テーマ「誰にでも出来る即効性のある症例」で、トップバッターには、岩手県師会の藤沼敦子先生による「帯状疱疹痛に対する鍼灸施術」が発表されました。時間内にピタリと収まりとても良い発表でした。

次は、学術講演（市民公開講座）です。講演の1席目の演題は「統合医療とがん」。講師は、東京有明医療大学保健医療学部教授の医師、川嶋 朗（あきら）先生でした。癌について、統合医療について、さらには予防医学についてなど多岐にわたってのお話でした。

講演の2席目は、「なまって笑ってコミュニケーション」ということで、落語家の六華亭遊花（ろっかていゆうか）氏による落語でした。遠野出身の彼女は、東北弁を交えながら私たちに大いに笑わせてくれました。

懇親会のオープニングは地元仙台フィルのバイオリンとピアノによるミニコンサートで始まりました。二次会では、岩手県師会のメンバーの大半が近くのスナックへ繰り出し、仙台の夜を満喫しました。

大会第2日目、特別講演では、「鍼灸マッサーヂ業界の最新情勢」と題して全鍼の伊藤久夫会長が、鍼灸師が機能訓練指導員として認められたことや保険制度の改正、広告緩和協議について話されました。

前日に続く臨床研究発表2部では、「突発性難聴」と「星状神経節及び上頸神経節置鍼法の実際」の説明がありました。

また、「明日からの臨床に役立つ操体法」と題して宮城県師会の稲田 稔先生の実技が披露されました。

閉会式では臨床体験発表した各県の先生方に賞状と記念品が贈られ、その後各会議報告、次年度開催の福島県平栗会長から挨拶がありました。そして、今年から新しく作られた東鍼連旗が宮城県師会長から福島県師会長に引き継がれ大会は終了となりました。

第3回研修会

「今年の鍼灸マッサーヂ県民公開セミナー2018」は、キャッチフレーズ「いやしもなおしも「鍼灸マッサーヂ」！ やっぱり、そだねー！」の下、8月5日（日）アイーナ4階を会場に行われました。秋田県師会からも5名の方が参加してくれ、当会34名と合わせて39名の参

加でした。

体験コーナーは、マッサージコーナー、はりコーナー、きゅうコーナー、体操コーナーの4つのコーナー。並行して医師の長田裕先生の「チクチク療法」の講話と実技。

各種無免許啓発ポスターや岩手県師会の活動紹介写真、鍼灸マッサージ治療の啓発ポスターを掲示しました。また、来場者（延べ126名）には参加会員の治療院一覧表や鍼灸マッサージの効能を記した資料を手渡しました。

今年のセミナーは、これまでの経験からベッドを10台に増やしたり、総合受付の他に各コーナーにも受付を置くなどしたため、利用者の流れがとてもスムーズに行きました。利用者の内訳は女性が87名で男性が39名でした。人気のコーナーは例年通りマッサージコーナーで次に鍼、灸、体操コーナーの順でした。

ご協力いただいた秋田県師会の皆さん、(株)カナケン、(株)セイリン、そして当会会員の皆さんどうもありがとうございました。おかげさまでセミナーは今年も大盛会の内に終了することが出来ました。

第4回生涯研修会

9月9日(日)、盛岡視覚支援学校において三団体学術研修会が開催されました。当会からは29名が参加(全体で50名余)。

今年の研修会の講師は、東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科准教授水出靖(みずいでやすし)先生で、テーマは「肩関節痛に対する鍼灸・手技療法の理論と実際」というものでした。

講演内容は、臨床で遭遇することの多い肩関節痛について、特に、肩関節周囲炎や五十肩を中心にその病態や診察・治療方法などを午前10時から午後3時まで指導していただきました。普段から臨床現場で症例の多い、肩こり、腰痛、背部痛などをしっかり施術して改善させておくことで肩関節周囲炎の発症を予防できるとのお話があり、普段の臨床の重要性を感じさせられました。

閉講式では、参加者を代表して松下優子さんが講師へ謝辞を述べて終了となりました。

(第5回研修会は一関国際ハーフマラソン大会ボランティア、第6回研修会は、東鍼連いわき交流会。事業部、組織強化部報告参照)

第7回生涯研修会

第7回研修会は、11月25日(日)、アイーナ4階・アイーナスタジオにおいて開催されました。今回も東鍼連保険部長研修会を兼ねて開催され、東鍼連保険部長6名の出席をあわせた会員37名の出席でした。

午前の部の講演は、「メディカルインタビュー」ということで、講師は北上市で薬局に勤務されている、薬剤師の若山利夫先生でした。

メディカルインタビューの目的は、信頼関係を築くこと、健康問題の評価、健康マネジメントの3点が重要であること。急速な高齢化社会を迎え在宅での医療・介護の時代が到来しており、これらのサービスを提供する側が患者の問題解決に参画する時代になってきた。心身面のケアのみならず、生活環境、生きがい創出などについて助言できるようになること。

医療者は患者の病いの物語や苦境を理解し、患者を取り巻く諸問題を把握し共感・共有し

ながら、相互にコミュニケーションを図り信頼関係を築き、最良の治療法を選択・実施し、治療後の経過を観察しながら症状の改善を図ること。その根底に置かなければならないのは、患者を尊敬し患者が主役であるという考え方を中心に据えて、人間関係をより進展させるために自分が変わることや成長することが大事であることなどを話されました。

午後の部の講演は、「受領委任制度の最新情報について」という演題で、全鍼師会副会長・保険局長の往田和章（おおたかずあき）先生のお話でした。

往田局長には、具体的な実務面における内容を重点的にお願いしてありましたので、施術報告書の書き方や同意書及び再同意に関わる注意点とか、改正された重要なポイント等をきめ細かくお話いただいたほか、質疑応答では、参加者からの活発な質問にも丁寧にお答えいただきました。

また、保険取扱いについて、ご自身のこれまでの体験談や、担当役員として厚労省との交渉を通じての思いなど、山あり谷ありの道のりを語っていただきました。

先生いわく、「まだまだ思うところの半分程度しか要望が達成できなかった」。しかしながら、歴代役員の長年の努力による今般の受領委任制度への移行は、大きな功績であり、あはき業界の大きな足跡になるであろうことは間違いありません。

第8回研修会

平成31年2月17日、今年度第8回目となる生涯研修会がアイーナ6階団体活動室3において行われ、会員21名が参加しました。

午前の部は「健康づくり委員会活動の中間総括」ということで、古水健吾委員長より平成23年に発足してからの7年間の活動が紹介されました。

続いて私、佐藤から「健康づくり体操の活用法」ということで、習熟した知識を生かして委員会のメンバーが町内会に招かれて講話や実演を行った例を発表させていただきました。

その後は、清水寛平さんによる「健康づくり体操の実技講習」として首、肩、腰の経絡テストと、経絡ストレッチ。朝橋正美さんからは貯筋体操と10分間歩行について指導をしてもらいました。

午後の部は、佐々木実会長による「業界を取り巻く諸情勢について—無免許問題を中心に—」という講演でした。ここ数年来の無免許者問題について、会長自らが先頭に立ち、県師会として取り組んできた事例を挙げて具体的に経過を報告してもらいました。また、「一般人の無免許問題感覚」と題して奥様の由美さんからは、業界人と一般国民との認識のずれを話していただきました。

会長から今後の考え方として、無免許者取り締まりの法制定運動、国民に無免許者のいることを知らせる活動として院内ポスターの掲示、チラシの配布、鍼灸マッサージ県民公開セミナーや各種ボランティアの充実があげられました。

次に、午後の部の2題目は、佐々木治療院院長の佐々木実先生によります、「美顔マッサージの実技講習」でした。コールドクリームを使いながらの美顔マッサージは「心地よい」と好評でした。美顔マッサージを取り入れて予想以上の反響があり、収入アップにつながったとの話でした。

結びに、1年間生涯研修会に参加ご協力いただいた皆さんに感謝いたします。今年度の集計では14名の方々が研修修了者認定を受けることとなりました。ありがとうございました。

事業部報告

事業部長 舘下 正則

- 7月1・2日 東鍼連宮城大会参加協力（ホテルサンプラザ）
 9月23日 第37回一関国際ハーフマラソン大会マッサージボランティア実施
 10月14・15日 東洋療法推進大会 in 鹿児島 佐々木実会長、伊藤庸一相談役出席

第37回一関国際ハーフマラソン大会マッサージボランティア報告

9月23日（日）、雲一つない青空の下、3500名の選手が稲穂が垂れる一関路を走りました。招待されたハワイのランナー、市民ランナーの川内優輝、大学生、など多くの選手が参加していました。

私たち一関支部会員9名、そして県師会より大澤睦子さんと高橋康浩さんの応援を受けて、68名の選手の皆さんを施術する事が出来ました。

協力いただいた皆さんに感謝いたします。

釜石小川地区高齢者サポートセンター鍼灸マッサージボランティア報告

月日	参加者数	施術数	月日	参加者数	施術数
4/8	1	6	10/21	1	4
4/22	1	5	11/4	1	4
5/13	1	4	11/18	1	4
5/27	1	4	12/2	1	3
6/10	1	4	12/16	1	4
6/24	1	4	平成31年 1/13	1	3
7/15	1	4	1/27	1	3
7/29	1	4	2/3	1	4
8/19	1	4	2/17	1	4
9/2	1	3	3/10	1	4
9/16	1	4	3/24	1	4
10/7	1	4	合計 23回	延べ23名	延べ91名

※平成25年1月20日からスタートしたボランティアは6年2カ月に及び、平成31年3月24日に終了しました。

※ボランティアは合計196回実施され、会員のべ335名の参加により、のべ1,797名の被災者の方に施術しました。

平成30年度 各支部奉仕活動報告

月日	参加者数	施術数	月日	参加者数	施術数
5/13(一関)	10	39	9/30(奥州)	7	42
6/10(大船渡)	6	35	10/21(盛岡)	6	79
7/8(一関)	8	29	11/19(盛岡)	9	11
9/23(一関)	11	68	合計 7回	延べ57名	延べ303名

保険部報告

保険部長 袖林 広正法

<はじめに>

平成30年は、10月より法的受領委任払いに向けての改正がスタートしまして、翌年（平成31年）より、各保険者が導入を始めております。そんな中での報告であります。書式の統一、同意書の統一、施術報告書の導入などがその主な内容ですが、皆さんと一緒に勉強して、保険取扱を進めてまいりたいです。

ただし、往診料は安くなり、出張をメインにされている先生はうま味が減ったと思うかもしれませんが、統一見解は良い方向に進んでいるものと確信します。細かい内容は割愛しますが、保険診療は患者さんが、経済的軽減によって、鍼灸マッサージが国民権を得てさらに進み、東洋医学が深く広く浸透するよう、みんなで進めていきたいです。

<一つ目 仙台夏の保険部長会議報告>

平成30年7月1日午前10時半より、宮城県仙台市宮城野区の仙台サンプラザにて、夏の保険部長会議が行われました。参加者は青森は寺内先生、宮城は千田先生、秋田は高橋先生、山形は伊藤先生、福島は新人の松前先生と岩手の袖林で行いました。

保険取扱高は各県下がっていて、把握できない県も出てきていました。各県受領委任払いの登録処理に向けて取り組むというところでした。

<二つ目、秋の保険部長会議と研修会報告>

平成30年11月24日（土）、盛岡アイーナで17時から保健部会議をおこないました。全県参加です。

内容は主に、受領委任制度の移行についてでした。

夕食は「開運とん」という居酒屋で、大変好評でしたし、宿は盛岡ルイズ（昔のリッチ）でした。

翌25日は、岩手県師会協賛で研修会をおこないました。午前は、薬剤師若山利夫先生による、「医療面接」、午後は往田先生による「保険制度改革について」のお話をお聞きしました。

<最後に>

私事ですが、現在mAm製の発揮君という、レセコン（レセプト発行ソフト）を使っていて、受領委任払いの書式にアップデートが行われていますが、コマンド（命令ボタン）が換わったり増えたりして、毎月手こずっております。早く慣れて、患者さんの健康に寄与していきたいです。

組織強化部報告

組織強化部長 佐藤 茂

平成30年7月1.2日に開催された東鍼連において組織強化部長会議に出席、大会に参加しました。

又、秋に開催された福島いわき交流会へも参加しました。ここではその報告をします。

東鍼連福島交流会 in いわき

10月20・21日に福島県いわき市にて東鍼連交流会が開催され、30人以上の方が参加し、本県からは8名参加しました。まずは湯本駅に集合し、「いわき市石炭・化石館」を見学。化石は動物、石炭は植物が膨大な時間をかけて石化したもので温かい環境ではバクテリアに分解され化石にはならないとのこと。つまり炭鉱の町いわきはかつて寒い環境であったということです。

いわきは温泉も湧くので、石炭を採取するときにはその暑さとの戦いでもあり、まるでサウナで作業をしているようだったとか、当時の工夫の努力が垣間見えるようでした。

その後は宿泊先の「新舞子ハイツ」にて平栗 辰也 先生による『ミャンマー赤十字派遣で見た地域医療の現状と海外鍼灸マッサージの普及について』の講習が行われました。現地での体験の話や五十肩の患者を施術し感謝されたこと。識字率は決して高くはなく、三角巾に使い方の絵が描いてある（実際使用したもの）ものを見せてもらったりしました。

ミャンマーでも伝統医療はあり、インドのアーユルヴェーダが国情に合わせて変化したものがあるそうですが、華僑の民間医療「アッサイ」（アツとは針、サイとは刺すの意）と呼ばれるハリ治療があり運動器系の症状には定評であるとのこと。現地の治療院の玄関もプロジェクターに映されましたが、日本のどこかにありそうな感じの治療院がミャンマーにもあるようでした。

盲人学校では日本からの技術指導などのボランティアも行われているらしく、現在は指導者募集中とのこと。なお、条件は給料が月給10万で3年間指導をすることだとか。ちなみに指導ができる方なら免許の有無は問わないとのこと（我こそはと思う方は平栗先生にご相談）。

講演会の後に懇親会、二次会で親睦を深めることができる有意義な時間を過ごし、翌日は「美空ひばり記念歌碑」で集合写真をとり、「アクアマリンパーク」の水族館を見学し解散しました。

本当に楽しい2日間でありました。これも福島県師会の組織強化部長の三部 功先生をはじめ、福島県師会の皆さんの心づかいのおかげです。それと、岩手県師会からも多くの方々に参加していただきましたことに感謝します。

来年は福島で東鍼連学術大会があります。もっと多くの方に奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

健康づくり委員会報告

委員長 古水 健吾

1. 第23回勉強会と打ち合わせ会議日時 平成30年6月3日（日）15時30分 出席者7名
会場 アイーナ6階・団体活動室3
内容 8月5日「鍼灸マッサージ県民公開セミナー2018」
健康づくりコーナーについて打合せ
2. 鍼灸マッサージ県民公開セミナー2018
日時 平成30年8月5日（日）11時～14時30分 出席者5名

会場 アイーナ 4 階・県民交流プラザ

内容 健康づくりコーナーの担当

3. 第 24 回勉強会兼ミーティング

日時 平成 30 年 11 月 25 日（日）15 時 30 分 出席者 8 名

会場 アイーナ 4 階・アイーナスタジオ

内容 (1) 平成 31 年 2 月 17 日の第 8 回生涯研修会について

①介護予防研修の中間総括

講話担当：古水健吾

②介護予防体操の活用法と実技講習

講話担当：佐藤 明

実技指導：清水寛平、朝橋正美

(2) 健康づくり委員会の今後のあり方

4. 第 25 回勉強会兼ミーティング

日時 平成 31 年 2 月 17 日（日）16 時

会場 アイーナ 6 階・団体活動室 3

内容 (1) 平成 30 年度活動報告について

(2) 2019 年度健康づくり委員会活動計画(案)について

第 17 回東洋療法推進大会 in 鹿児島に参加して

一関支部 伊藤 庸一

明治維新の立役者「西郷隆盛」のふるさとであり、そして現在 NHK 大河ドラマ「西郷どん」が放送されている折、おそらく国内で一番ホットな観光地であろうと思われる人口 60 万人の鹿児島市において、第 17 回東洋療法推進大会が 10 月 14 日（日）15 日（月）の両日開催されました。会場となった鹿児島サンロイヤルホテルの前には錦江湾、そして今も毎日のように小規模な噴火を繰り返している、生きた火山と言われる桜島の雄姿に圧倒されます。北は北海道から南は沖縄まで全国各地から 400 名以上の会員が集まり、「明治維新 150 年と東洋療法～敬天愛人～」をテーマに掲げた大会は、1000 名以上を収容できるという 2 階全フロアを使用しての開催でありました。

プログラムは全 7 部からなり、第 1 部開会式、第 2 部特別講演、第 3 部から第 6 部までは各委員会などが主体となった分科会、第 7 部閉会式という構成で行われました。

各部の内容をお伝えして報告とします。

第 1 部 開会式

中野義雄副会長の開会のことば、伊藤久夫会長の挨拶に続き、松元健一鹿児島県鍼灸マッサージ師会会長の歓迎のことば、三反園訓（みたそのさとし）鹿児島県知事、森博幸（もりひろゆき）鹿児島市長、横倉義武（よこくらよしたけ）日本医師会会長（代理）からの祝辞、その他多くの来賓の方々をお招きしての開会式でありました。

第 2 部 特別講演

志學館大学人間関係学部教授、原口 泉先生による「西郷隆盛の文明観」と題しての講演でありました。先生は東洋医学にも造詣が深く「西郷どん」の時代考証をされており、薩

摩の貧しい下級武士の家に生まれた素朴な男、西郷隆盛が、カリスマ藩主島津斉彬の目に留まり、南国奄美で愛に目覚め、勝海舟や坂本龍馬、桂小五郎、岩倉具視ら盟友と出会い揺るぎなき革命家へと覚醒、やがて明治維新を成し遂げていく西郷像を一味違った切り口での話でありました。

鹿児島では、数え7歳が子供にとって地域社会へのデビューの年であり、郷中という地域社会を基盤として地域の中で子供を育てるという伝統的な郷中教育では、7歳の儀式が格別大きく行われるという。西郷は後に、天を敬い人を愛するという「敬天愛人」を座右の銘としますが、この思想の原点も鹿児島の地域教育や文化にあったのではないかという。

第3部 A会場 「災害時の鍼灸マッサージ師の役割と課題」

講師は小西恵一郎国際医療技術財団代表理事。

全鍼師会は、平成23年に第1回国際技術財団（JIMTEF）災害医療研修に参加し、今年で10年目になり、合計67名の修了者を輩出している。東日本大震災以降、研修を受けたあはき師がDMATをはじめ、他職種と連携し常総市の大水害、熊本地震、九州北部大水害、西日本豪雨などの大災害の急性期から組織的に避難所を巡回し、被害者の心身的な症状に対しケアを行っており、現在も断続的ケアが続いている。被災地に入り心身のケアを行い喜ばれている。しかし、活躍できるという自負があるが、何が役立ったか。客観的に評価したか、単に被災地に入り施術したという自己満足に終わってないだろうか。医療としてではなく慰安的なサービス部門として認識されていることも否めない。今後、我々が災害医療として認識してもらうためには、日ごろから客観的データを集積し、県や市町村の防災担当者にデータや活動記録などの資料提示や、日本災害医科学会等に積極的に参加し発表を行い、地域の防災訓練に参加するなど外部や医療、他職種の方々に、あはき師の存在と何ができるのかを知ってもらうことが最重要課題と考える。

第3部 B会場 「あん摩・マッサージ・指圧療養費の受領委任について」

業界全体が長年にわたり切望してきた受領委任制度が来年1月より開始される。本年10月から変わる同意書に関しては佐々木会長からの報告のとおりである。

今回の改正される内容については①同意書書式の変更②口頭同意の廃止③支給可能期間の延長④施術報告書の交付と施術報告書料の新設である。

第4部 A会場 「HTLV-1 関連脊髄症（HAM）の診療とリハビリテーションについて」

講師は松崎敏男・大勝病院脳神経内科医師

HTLV-1 関連脊髄症（HAM）はHTLV-1 感染が誘引になり、下肢の痙性麻痺、排尿・排便障害、感覚障害を呈し慢性に進行する脊髄炎である。他のウイルス性脊髄炎と違い肺障害、関節障害、筋障害他の自己免疫疾患等を併発する。診断は両下肢の痙性麻痺、血液・髄液の抗HTLV-1 抗体が陽性、下肢に病的反射を認める。排尿障害や便秘以外に発汗障害やインポテンツなども伴ったりする。治療として痙性に伴う筋力麻痺に対し、最近ではロボットリハビリテーションが導入されている。HAMの異常知覚は、冷感とともにジリジリ感を示し、局所麻酔薬、抗うつ剤、抗てんかん剤の内服に加え鍼治療、低周波治療といった物理療法が有効である。

第4部 C会場 「はり・きゅう療養費の受領委任について」

あん摩マッサージ指圧療養費の受領委任に準じており省略

第5部 B会場 「臨床発表7症例」

今年健康保険制度における療養費の改正があり、受領委任制度が認められ社会的認知度が増えています。しっかりとしたエビデンスに基づいた病態把握と、医師にも解り易い現代医学用語を用いての文章作成能力が求められます。医師との信頼関係、連携を強化できるチャンスではないかと思えます。

業団としても保険制度推進とともに、日々の臨床のなかで多くの疾患を扱い成果をあげていることも多いと思えます。その実績をまとめて発表することは、医学の発展のためにもとても重要な事であり、国民の認識や我々会員の質の向上に役立つものと考えている。

- ①「下顎智歯抜歯後に生じた知覚神経障害に対する鍼灸治療の1症例」
- ②「難治性の下痢に鍼灸治療が有効だった1症例」
- ③「急性腰痛時の帯脈穴へのアプローチが著効した1症例」
- ④「脳卒中後の嚥下障害に対する鍼治療の有効性」
- ⑤「乳がん手術前後の施術と抗がん剤治療前後の施術～鍼灸マッサージ師の必要性～」
- ⑥「心地よい治療を目指して」
- ⑦「医療連携による眼科領域での鍼灸治療の効果」

第5部 C会場 「あはき広告規制と共に考える19条問題」

本年5月より「あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師及び柔道整復師等の広告に関する検討会」が開催されており、この検討会を主管する厚生労働省医政局医事課・松田芳和医事専門官を招いて、あはき広告規制に対する厚生労働省の考え方や進捗状況の説明を受けた。視覚障害委員会からは、マッサージは視覚に障害がある人にとって最も適した職業と考え、これまでも幅広い方々の健康保持増進、疾病予防と治療に寄与しております。

ところが職業選択の自由の見地から、この資格を取得したい健常者が増え裁判になっております。晴盲一体の全鍼師会にとって「あはき19条」は、視覚障害者だけの問題ではなく晴眼有資格者にとっても大変な問題である。撤廃されれば当然、免許者が増えてくる。質の低下、不正請求も増えてくる。「あはき19条」をどのようにとらえ、取り組むべきか。フロアから質問・要望・意見など多く出され、高い関心を示すテーマであった。

第6部 B会場 「2020年東京大会 ポリクリニック（総合診療所）及びホストタウン対応～今後のスポーツ事業のあり方～」

2020年東京大会を2年後に控え、ボランティアの受付が開始された。選手村のポリクリニックの募集も併せて行われている。また、ホストタウンの誘致活動が活発に行われ220の自治体で受け入れを決めている。このホストタウンは、地域の資源を活用しておもてなし、選手をサポートするもので様々なサービスを企画中である。我々あはき師は、スポーツ選手のコンディショニングの一助となることを願うものである。そのために、今まで鍼灸マッサージ指導者育成講習会で培ってきたS級、A級の認定者を軸に、各師会あるいは、ブロック単位で企画に参入できるよう、自治体に積極的に働きかけていただきたい。長年継続してきた鍼灸マッサージ指導者育成会は、2020年東京大会において活動できる人材の育成に貢献することのみならず、今後日本で行われる国際大会、国体、インターハイ、マラソン大会、各種競技会、障がい者スポーツなどにおける主導的な役割を担う人材の育成のために、さらに発展させていきたい。

第6部 C会場 「機能訓練指導員の役割」

超高齢化社会の中で介護の重度化をさせないことや、健康長寿を延伸するためにも介護予

防の取り組みや、機能訓練指導員の役割は大きなものと認識されています。

平成30年4月の介護保険制度改正により、鍼灸師が機能訓練指導員の要件として認められましたが、国家資格の取得のみでは要件を満たすことができず、6ヵ月の実務研修が必要になります。また、機能訓練指導員が特定の介護保険施設で勤務することで、機能訓練加算が取得できますが、その加算取得までの業務をきちんと理解できているのでしょうか。実務や今後の役割などについて現在勤務されている方の話を聞くことで、理解を深めることができました。

第7部 閉会式

明治維新150年に思いを馳せ、東洋療法の原点に立ち返って見つめ直し、鍼灸マッサージ師として、業界として進むべき道を皆で確認した2日間の大会の幕が下ろされました。次回開催は神奈川県です。

鍼灸マッサージ県民公開セミナー2018 in アイーナ

盛岡支部 藤沼 敦子

内容としては、一般公開講座「チクチク療法」創始者ナガタクリニック院長長田裕医師。皮膚を刺激するだけで、生活習慣病が改善。講演・健康相談・体験施術。参加費無料。

別枠として、無料施術体験コーナーを設置。会員に寄るマッサージ・鍼・灸・健康体操のコーナーで体験出来ます。というもの。

当日私は、はり体験コーナーのスタッフとして参加させていただきました。バスタオルの持ち込みを依頼されていたので、バスタオルを抱えてアイーナへ。昨日まで良い天気で30度越えの厳しい暑さだったのに、本日は雨。蒸し暑いには暑かったが、それほど気温はあがらなかつたらしく、冷房なしでも長袖で過ごすことが出来た。

朝のミーティング終了後、会場の設営から始まり。丸テーブルを片付け、パネルを設置し、受け付けや消耗品置き場の長テーブルを出し、折りたたみベッドを並べた。そして、設営するとすぐにお客さんがやって来て、「え、受け付けは誰がやんの？」という状態であたふたと受け付け作業を開始した。

野月平先生と一緒に受け付けをしたのだが、まあ、正直、そんなに混雑するほどでもなく、ぽつぽつ希望者が現れる程度。来場された方々はほとんど医師の講演を聴きにきているし、たいして混まない。しかも、すべて無料ということで、マッサージもはりも灸も全部体験される方も何人かはいらした。

担当としては、午前中のはりコーナーだった。他に野月平優子先生、それから、その日、「美顔鍼」を担当された、井上貴奈先生、はりコーナーの責任者、伊勢澤佑介、長内義行先生他。日鍼会から一緒に移籍した阿部先生もマッサージ担当でいらしていたし、日鍼会会員の先生が、午後から日鍼会主催の保険取り扱いに関する講習会に参加されるとのことで顔を出してくださいました。

後に、お昼休みに入る際、3人で喫茶店にてお茶をした。お昼を挟んで、休憩後は会場周辺をウロついて、業者さんと話をしたり、県内の工房の作品を眺めたり。いずれ、手伝うほど希望者は多くなく、安定していたと思う。延べ人数として120名ほど体験されたそうだが、各コーナーをまわって全部体験した方などもいらっしゃるし、このセミナーをどこでお知り

になりましたか？ の質問に、「治療院」というお答えが多かったのには少し驚いた。会員の先生方がどれだけ患者さんにお知らせを頑張ったのか！ と。

はり・きゅうの啓蒙活動、無資格施術者の施術に対する注意喚起などが主な目的だったので、もともとの患者さんが多かったのでは、あんまり意味ないのでは？とチラッと感じた。

それでも、続けることが大事。継続していくことで、認知度も高まるし、たまたまアイーナを訪れて体験を希望されてきた方や、「職場がここなので」とおっしゃるお昼休みの職員の方などにも体験ただけでことは良かったと思う。

それから、こういうイベントに参加するスタッフを募集すると、30名強が軽く集まるという現状には心底感動した。前の会では、どんなにスタッフ集めを頑張っても2~3人が限度、しかも会長に一人一人電話していただいてなんとか集めたような惨憺たる状態だったのに。沿岸部でのボランティアを行う場合は、ほぼ一人というのが当たり前。休日であれば、家族を助手代わりに、受け付け担当に引っ張り出してなんとか形を整えていた。

思い出すと、未だ辛い気持ち、悲しい気持ちが蘇る。

事前のコーナー毎のスタッフ・ミーティングを徹底した方が良いのでは？ など思うことも多々あったが、総じて、和やかに進行するイベントに参加させていただけたことに対する感謝が残った。

第41回東北鍼灸マッサージ学会に参加して

盛岡支部 村上 晃

平成30年7月1日と2日にわたり、宮城県仙台市の仙台サンプラザを会場に、第41回東北鍼灸マッサージ学会宮城大会が行われました。

この大会にはほぼ毎年参加しているのですが、今年の大会は、発表・講演など、全てにおいて「録音お断り」ということでしたので、いつもに増して集中力が高まりました。ホテル内のレストランで昼食を取った後、開会式に臨みました。

開会式に引き続き、臨床研究発表が行われ、第1部として4席の発表がありました。中でも、1席目の岩手県師会の藤沼敦子先生と、4席目の相良清子先生の発表は、私も似たような事例を治療した経験が有るので、関心を持って聞きました。

次に、市民公開講座として2席の講演がありました。その1席目は、「統合医療と癌」と題して、東京有明医療大学保健医療学部教授で医師の川嶋 朗（あきら）先生がお話しされました。病気に焦点を当てるのではなく、人間に焦点を当てることが重要であると、話されていました。また、東洋医学や鍼灸マッサージが日本の医学を救うとも、話されていました。先生が時々ラジオ番組で話されているのを聞くことがありますが、生の講演はとても迫力がありました。

市民公開講座の2席目は、女流落語家・六華亭遊花の登場です。「なまって笑ってコミュニケーション」と題して、私たちを笑いの渦に巻き込んでくれました。枕では、東北人にしか発音出来ない「き」の発音指導を受けるなど、大いに笑わせてもらいました。落語本題では、昔話としてよく知られている「冥加宿」を題材にしたとても楽しいものでした。

1日目のシメは、懇親会です。それぞれ席について何人かのあいさつの後、そのまま乾杯に入るのかと思ったら、そうはいきませんでした。

オープニングを飾ってくれたのは、仙台フィルのメンバーによるピアノとバイオリンの演奏でした。最初の内はセレブな気分でしたが、時間が立つにつれて、喉の渇きの方が気になってきました。「早く飲みたいなあ」と思ったのは、私だけだったのでしょうか？

乾杯が終わると、今までセレブな気分浸っていたことを忘れるかのように、大変盛り上がりました。二次会は、岩手県師会企画で、仙台の街に繰り出しカラオケの店で飲んで歌って楽しむことができました。何時に帰ってきたのか、私はよく覚えていません。

2日目は、全鍼師会伊藤久夫会長の講演で始まりました。受領委任払いの事や、広告制限の事などを話されていました。業界の情勢の変化を注視していかなければならないと思いました。

続いて、臨床研究発表の2部として2席の発表がありました。私は、「突発性難聴の治療を手掛けたことが有るので、1席目の発表は、特に関心を持って聞きました。

続いて、操体法について、実技を交えての講演がありました。操体法については、何年も前からいろいろな形でお話を聞いていますが、私としては、まだまだ勉強の余地が有ると思っています。

そのあと、閉会式が行われました。閉会式では、各会議報告や次期開催県への引継ぎなどが行われ、大会の全日程が終了しました。

最後に、私の大失態を書きます。帰りに昼食をとった仙台駅ビルのお蕎麦屋さんに携帯電話を忘れてきてしまいました。その日の夜にお店の人に見つけていただき、2日後に自分の所に戻ってきました。その節は、周りに居合わせた皆様には、お騒がせをし、ご迷惑をおかけしたことをお詫びして原稿を閉じたいと思います。それにしても、とても暑い二日間でした。

東鍼連福島交流会に参加して

釜石、宮古支部 佐々木 きみ子

平成30年10月20日～21日に福島県いわき市で、東鍼連交流会が行われました。東北全体では32名、本県からは8名の出席でした。

私は前日に実家の岩沼に泊まり、当日福島駅で合流し、さわやかな秋晴れの下「いざ出発！」

湯本駅から車で移動し「いわき市石炭化石館」を見学です。エレベーターで600メートルの深さまで下がり坑道見学です。

化石は動物、石炭は植物が長い年月をかけて石灰化したもので、温かい環境ではバクテリアに分解されるので化石にはならないとのことでした。つまり、炭鉱の町いわきは、かつては寒い環境であったということです。またいわきは温泉も湧くので石炭を掘るのにその熱さとの闘いでもあったそうです。サウナで作業をするようなものだったでしょう。

見学しているうちに気が付いたら地上に出ていたのにはびっくりでした。

その後、宿泊先「新舞子ハイツ」で平栗辰也先生による「ミャンマー赤十字派遣で見た地域医療の現状と海外鍼灸マッサージの普及について」の講話が行われました。

現地での体験によると、五十肩の施術をし感謝されたこと。識字率は決して高くはなく、三療の普及に従事することは容易ではないとのことでした。

盲学校では日本からの技術指導ボランティアも募集中とのことです。

平栗先生のお話の後には、ひとまず温泉につかり待ちに待った懇親会です。料理とお酒を堪能しカラオケと情報交換で夜更けまで盛り上がりました。

翌日は汐屋崎灯台の下にある美空ひばりの歌碑「みだれ髪」を見学。ひばりが病魔の中レコーディングしたこの曲は、鬼気迫る迫力があります。作詞の星野哲郎・作曲の船村徹・そして歌唱の美空ひばりと三人の渾身の一曲が誕生したのでしょう。

「みだれ髪」の歌碑をバックにみんなで写真を撮り、最後の目的地「アクアマリンパーク」を見学。深海魚や熱帯魚など色彩豊かな魚を入れて写真を撮ろうとしていた時に、ガラス張りの水槽の中に潜り込んで酸素ポンペを背負って水槽のお掃除をしていたお兄さんが、上から下りて来て私たちのグループにピースサインをしてちゃっかり写真に収まっていたのです。

今回の交流会では福島県師会の皆様のお心遣いのおかげで実りあるかつ楽しい二日間を過ごすことが出来ました。東鍼連での再会を約束し帰途につきました。

釜石小川地区鍼灸マッサージボランティア

この事業は平成25年1月から平成31年3月までの6年3カ月間、釜石市小川地区高齢者サポートセンターで月2回、日曜日の午後1時から4時まで（年によっては利用者の強い希望により毎週）行われ、延べ196回、335人の術者が参加し1,797人を施術した。

この事業は復興資金を活用して当会とニチイ学館が共同で行った事業で、術者にはいくらかの代金が支払われることから、当会被災地で営業する会員にとっても経済的助力となったことは確かである。

仮設住宅が平成31年3月をもってなくなることから、この事業も終わりとなったが、被災地会員にとっても一般住民にとってもとても有意義な事業であった。

3月31日には事業に参加、あるいは協力してくれた人たちが釜石駅前の工藤食堂に集まり、終了式が盛大に行われた。席上、会員を駅から会場のサポートセンターまで自家用車で送迎するなど大いに協力していただいた佐々木香織氏に感謝状と記念品が贈られた。

これで当会の東日本大震災に関するボランティア事業は全て終了となった。

釜石ボランティアに参加して

釜石、宮古支部 佐々木 真樹

私が釜石ボランティアに参加したのは、2016年の7月からでした。釜石ボランティアへの参加のお話をいただいた時は、地元でこのような活動が行われていた事を知らず、可能な限り協力したいと思い参加させていただきました。そして岩手県師会にも入会させていただきました。

ボランティアは日曜日の午後1時から4時までで月2回のペースで行われました。鍼、灸、マッサージそれぞれの希望によって行いましたが、皆さん高齢者が多く、肩こり、腰痛の人が多かったです。

また地元ということもあって知っている人も多く、たくさんの方とマッサージを通じて交流することが出来て、大変良かったです。何よりも皆さんにとっても感謝され、私自身も参加して良かったと強く思いました。

岩手県鍼灸マッサージ師会の先生方へ（御礼）

釜石小川地区高齢者サポートセンター長

平成 25 年 1 月から平成 31 年 3 月サポートセンター終了までの 6 年 3 ヶ月、先生方には大変お世話になりました。小川（こがわ）地区サポートセンター一同心から御礼申し上げます。本来ならば慰労会に出席し、直接先生方にお礼を述べるべきところを、業務が立て込んでおりこのような形で申し訳ございません。

仮設住民の方々の自立、ひいては釜石の復興を成し遂げられたのは、先生方の施術や励ましのおかげと言っても過言ではありません。サポートセンター終了まであたたかいご支援、本当にありがとうございました。

施術を受けた仮設住民の方々からは、「マッサージや会話からこちらへの思いやりを感じた。体だけでなく、心もほぐされた。」といった声や、「体の不調の相談にのってもらって心強かった。もちろん症状も改善した。」といった感謝の声が毎回聞かれました。中には、同世代の先生との昔話に子供の頃を思い出したという方もいらっしゃいました。千年に一度という大災害を経験し、生活再建に向き合う日々を過ごされている方々が、その施術の時間にどれほど癒されたか計り知れません。

この事業は終了しますが、ふとした時に桜木町仮設を出て頑張っている方々を思い出していただけたら嬉しいです。

最後になりますが、岩手県鍼灸マッサージ師会の先生方のご活躍を心からお祈りし、感謝の言葉といたします。

マッサージコンテスト 2018 を見学して

大船渡支部 田沢 博崇

大会は 7 月 28 日（土）11 時 30 分から 17 時まで、東京パレスサイトビル 9 階マイナビルームにて行われました。11 時 30 分から開会式が行われ、一枝の夢財団、矢野忠理事長の挨拶のあと、選手と審査員が紹介されました。選手は全国から 28 人がエントリー（その中に外国人?の姿も）。12 時から競技が開始されました。最初にプロによる審査、そのあと一般審査が行われました。

コンテストと並行して、矢野忠先生の「東洋医学でセルフケア」の講演、ワンコインマッサージ、東洋医学健康相談、ベッド上での英会話教室が開催されました。私はワンコインマッサージを 2 回受けました。内容は 500 円で 15 分。最初に受けたのは全身だったため、いまち物足りない気分でしたが、2 回目は局所を重点的に施術してもらえたのでよかったです。

3 時半から土門治療院院長、土門奏先生的美顔マッサージについての講演が行われ実演を交えながらの講義が行われました。講演終了後 4 時半から閉会式が行われ、優勝者への表彰授与、講評などが行われました。なお、最優秀勝者の太田一浪先生には日盲連の竹下芳樹会長から日本盲人会連合会長賞も贈られました。

台風接近の中、大勢の方が来場され大きな混乱もなく開催されたことはとてもよかったことと思います。今年度から始まったそうだけど自分自身も含めみんなのレベルアップのために是非とも継続してほしい事業です。私はエントリーはしませんでしたが大変意義のある大

会だと思えます。これからも可能な限り参加したいと思えます。

余談ですが、東京駅からタクシーに乗ったとき間違えられて、「パレスホテル」に運ばれました。領収書があったので無料で無事目的地までたどり着くことができました。

とりとめのない文章になりましたが、以上報告といたします。

平成 31 年度災害医療 ACT 研究所 災害医療コーディネート研修に参加して

盛岡支部 藤沼 敦子

3月9日10日、日赤医療センター3階講堂で行われた研修に参加した。日赤の災害医療コーディネート研修は、実は3回目である。

最初は、27年度（28年1月23日24日）に石巻で開催されたプログラム、次は平成29年度（30年3月11日12日）に東京で開催されたオープンコース。そして今回である。

参加人数については、石巻の参加者は48名であった。次の東京は27名、今回は18名。（これは、少なければ少ないほど、本部運営実習時の一人当たりの負担が増すのだ）

主催者のご挨拶にあったが、医師コースの研修は、病院側から割り振られて強制参加の先生などもいらっしゃる、「なんでここにいるんだろう」という顔をしている先生もいるのだとか。しかし、職種を限定しないこのオープンコースは、自らホームページを調べたりして志願して参加されている方々ばかりなので、目つきが違うし、空気が違う、と。

わたしはオープンコースしか参加していないし、もちろん、医師コースには参加出来ないもので中の様子は分からないが、まあ、やる気のない集まりはそれなりであろうな、と思う。しかし、それは参加している医師が悪いんじゃないくて、こういうある意味特殊な分野は、もともとの姿勢とか興味・関心があるかで決まるので致し方ないことだと思う。

3回目とはいえ、この研修会も回を追うごとに進化しているというか、内容も多少変化しているし、各地で起こった災害もどんどん積み重なって増えている。当初は東日本大震災のみだったのに、それに熊本地震が加わり、各地の水害が加わり…。

今回、印象に残ったのは「避難所アセスメント」について。特に今回は救護班が行うラピッドアセスメントの用紙と保健師さんが行う環境衛生を加えたアセスメントの内容の違いなどを議論したからである。今後は、保健師さんのアセスメント用紙を活かして活動していくことになるようだ。

それから、本部運営訓練。これは、何度やっても作業のすべてが追いつかない。どんどんやって来る情報、依頼、SOS。命に関わらないからと後回しにしていると催促が来るし、物資調達も当てにしていた業団が対応不可と断ってくることもある。何県の救護班が到着しました、どこへ行けば良いですか？ とやって来るし、アセスメント情報がない避難所も未だある。

今回はクロノロジー（クロノ・ロジック）をやらせていただいたが、クロノロとは、通信係が電話を受けてメモを取り、それを対応している最中、複写のメモをいただいてホワイトボードに時系列に記載していく。そして、もう一人がTodoリストに拾って、対応が必要なものを別ボードに落としていく。本部長や副本部長がそれを確認して、未対応を埋めて行く。しかし、受けた時間を書いていないメモがあって、追われて貯まったメモの順番が分からなくなったりした。

最後の感想でそのことを言ったら、「そのとき、時間を書いてください」と言いましたか？ と聞かれて、「言ってないです」「それは言った方が良いですよ。もう大声で怒号が飛び交うような熱気がある現場の方が良いです。皆さんは大人し過ぎました」と。

ほほう、とちょっと思った。「災害医療現場は、怒号が飛び交う」。確かにそうかも知れないと思った。そういうテンションを保っていないと、焦燥や苛立ち、疲労と戦いながらの長丁場になる現場で気力を保てないかも知れない。それに、大声を出すことによって、周囲の人にも聞こえ、情報共有出来るそうだ。

情報共有。それは、災害時にほんとうに必要なことのひとつだと思った。

投稿欄

大阪に里帰りして

盛岡支部 袖林 正美

平成31年1月21日から25日までの4泊5日で、大阪に里帰りして来ました。

まずは1週間前に花巻の松倉温泉で行われた執行部会の新年会に参加し、翌日からA型インフルエンザにかかり、大阪行きに備えて早く治さなくてはならず、てんやわんやでした。火曜日と水曜日は点滴2本ずつの、計4本と飲み薬、うがい薬、トローチとフルコースで治療に励みました。

21日の月曜日はなんとか治し5時に起床。入浴して、野菜炒めをちゃちゃっと食べ、5日も空けるので、台所やトイレや風呂の水道の元栓を閉じることとなりました。大阪では経験することのない戸締りでした。

どたばたして午前8時にタクシーで出発しました。おつまみを抱え、8時50分発のはやぶさで東京まで2時間10分の道のり、乗ってしまえば何かつまんだり寝ていても良いので楽しんでました。

次に東京駅では東海道新幹線の乗り換えゲートを5分で潜り抜け、新大阪にはのぞみで2時間30分で着きました。

そこから、JRを降り、現在の大阪メトロ（旧大阪市営地下鉄）に乗り換え、有名な御堂筋線で長居まで向かいました。余談ですが、主人が「地下鉄のほうが1本でらぐだし、早いべえ！」といましたが、義父が「地下鉄ってへったって、空見えるじゃ！」、などと新幹線の中では飲んで寝ておりました。男性群は大阪見物を満喫し始めたそうです。地下鉄御堂筋線とは、大阪では唯一黒字路線と言われ、大阪市を南北にまっすぐ通り、吹田市（すいた）の「千里中央」から堺市の「なかもず」に至っています。北側の梅田（JR大阪駅）を超え「中津」という駅で地下鉄は地上に上がり地上を千里中央まで走ります。たぶん、淀川を越えるのにトンネルを掘るのが大変だったため丘に出たのでしょう。

「梅田」駅の次は、日本ライトハウスのある「淀屋橋駅」を通り、「本町」「心斎橋」「難波」を通って行きます。これらの駅は、買い物好きな人達が、そぞろ歩きをしますし、オーファンフィーフィーの「雨の御堂筋」など、歌にも出てきます。

そして、約30分揺られて長居に到着しました。

長居には有名なサッカー場やマラソンコースになっている長居公園があります。また、私

たちに関係ある「障がい者長居スポーツセンター」もあります。

午後2時過ぎに「パークホテル」にチェックインし、やっとほっと出来ました。

1日目は夜6時に両親と「かごの屋」と言う和食レストランで合流しました。妹も婚約中の彼を伴い会いに来てくれました。個室でしたので、気も使わずに、岩手弁と大阪弁の会話も弾み、楽しい会食となりました。途中、外山節を披露することとなり、照れながらアカペラをしました。今回主人のアドバイスで、外山節を覚えて故郷に錦を飾ったらと提案されたので、それならとアマチュア演歌歌手の古舘のM先生に指導を受けることにしました。

1週間前から歌い方のアドバイスをいただきながら練習した甲斐もあり、みんなから「おお！」とか「よう覚えたなあ」と感嘆の声。2時間余り楽しく話して、それぞれの帰途に着きました。

さて、2日目は長居パークホテルの初めての朝。朝食はパン食のプチバイキングでした。パン系は、食パン、ロールパン、クロワッサン、チョコ味のクロワッサンがありました。サラダ、スープ、ハム、ヨーグルト（プレーンとブルーベリー）、牛乳、コーヒーと言った感じで、毎朝ご飯食の人は物足りないかも知れません。

ただ、その食堂の人が盲人の扱いに慣れているらしく、私のサポートをしてくれて、弱視の夫は助かったと思います。

軽食の後、実家に行き、約束していたグラタンを作ろうとしていましたが、母が毎日行きつけの、きりしまと言う喫茶店に行こうと言うことになり、久々に二人で行きました。2年間大阪にいないうちに新しく改築していて、新しい建物の臭いにまたまたびっくりしました。

それで家でなにもないのはさびしいので、煎餅汁を作って振舞いました。両親は初めて食べたと美味しいと言って喜んでくれました。

夜は結婚前から家族で行っているカラオケスナックの「ゆう子」と言うお店に行きました。ママさんが2年ぶりで私と会うからと言って、お気に入りの香水をくれました。

そこでも私は外山節を歌いましたし、常連さんたちも、東北の歌を歌ってくれました。民謡ばかりではなく北国をモチーフにした歌謡曲満載でした。

そして3日目は朝から主人は大浴場に行きました。帰ってきて話すには、広さも丁度良く、盲学校の寄宿舎のお風呂程度で、全盲の私でも一人で入れると言っていました。

そして、昨日と同じ軽食を食べ、昼は実家に行き、私はお煮しめ（筑前煮）を作ることにしました。みんなで食べながら、ユーチューブ三昧をしました。父はテレビにJコムというユーチューブが映るように契約していて、岩手の祭りや民謡、地理や歴史のことを、こうやって楽しんでいる様でした。

その日は色々な外山節を聞き比べて、三味線あり、歌謡曲調あり、三橋美智也の歌も聞いて、楽しみました。

夜は、スシローと言う回転寿司のお店に行きました。あきんどと言えば、「あ」と思われる方はいますでしょうか？。私は今回初めて同じ店だと分かりました。

道中、南に向かって走る車中、大和川（やまとがわ）を越えたら堺市にかわると言う父の説明も聞きました。回転寿司と言えばボックスに座ってしまえば、回る端っこに座った人は、みんなのお寿司を注文したり皿を取ったりしないといけないから大変です。と言うのも、今ではタッチパネルかなにかでほしいものを注文するそうですね。それから、注文した品は、他のゆっくり回ってるのとは違って、自分の席めがけてびゅーんと走って来るんですね。ほ

か、お寿司以外にもラーメンとか饅頭、唐揚げ、枝豆、サラダ、デザートなど、まるで居酒屋です。

さて4日目、パンの軽食を食べて主人はそろそろ米が恋しくなって来ています。と言うか、白いご飯です。

私は実家へ。主人は京都へ出かけました。

両親といるとリラックスしたのか、お昼寝したり、煎餅汁を作って食べたりして、主人が帰ってくるのを待って、最後の夜ですから、すき焼きです。

この里帰りに合わせて、雫石牛を特別に注文していましたので、これでクライマックスと言う訳で、母も奮発して松茸を用意してくれました。野菜や豆腐を切り、私も鍋の用意をしましたし、松茸の掃除の仕方を母に教わりました。本当に硬い石突の所だけをこそげ取らないともったいないことも分かりました。

夕餉(ゆうげ)はユーチューブ観賞をしながら雫石牛に舌鼓を打ちました。

そして、長居パークホテルまでは両親共々に車で送ってもらい、これが自家用車の乗り収めとなったのです。と言うのも、父は週末を持って、車と免許を返納したからです。約60年間の車生活に終止符を打ちました。

そして5日目の朝、お寝坊がちな私も主人と早起きし大浴場へ入ることにしました。それは10階にあり、ビジネスホテルでありながら、男女も別になっていて、浴室に入って見ると、手探りでも迷わないくらいの広さでした。浴槽は家庭の4倍くらいとのこと。ゆったり足を伸ばして、誰もいないお風呂場で手探りしても気兼ねせず、のびのびと入浴しました。給水機も完備されていて結構快適でした。付け加えておくと、2階には製氷機やお茶の機械もあって、宿泊客は自由に飲むことができます。

さあてお風呂に入り、最後の朝食。いつものパン食だけど、ちゃんと味わって、そうそうにホテルをあとにしました。地下鉄で新大阪へ行き、来る時は買いそびれたので、到着するやいなや買い物が始まりました。

まずはリクローおじさんのチーズケーキと言うのを買いました。大阪難波にあるケーキ屋さんではいつも行列ができていて、ケーキが焼きあがると、ちりんちりと鐘を鳴らすのです。新大阪でも鐘の音がしていました。このケーキは直径が約20センチメートル、高さが5センチメートルと、プレーンは700円、上のクリーム乗せは1000円ぐらいです。私は焼きたての熱々でプレーンを買いました。

それから、これも有名ですが、「551の蓬萊」の豚まんや、大きめの海老シュウマイ、それから餃子。いっしき買いこんで、のぞみ新幹線に乗りました。チーズケーキは帰ってのお楽しみ。蓬萊とかほかのおつまみを食べたり寝たり。東京からはやまびこに乗り、行きとは違って3時間半かけて、自由席で盛岡へ帰りました。栃木県の宇都宮を過ぎたくらいからでしょうか？さっきまでむんとして暑苦しかったのが、なんだかすっとして来て、元気も出てきた様です。そして、一関、北上に向かうにつれて、やっぱり我が家に近づいた感があったのでしょうか？やっとなんて帰って来たなあと思いました。

今回里帰りを果たして、新たに、今までよりいっそう岩手で頑張ろうと決心しました。

読んでくださったみなさまありがとうございました。

各支部活動報告

大船渡支部

支部長 古水 健吾

- 4月1日 30年度支部総会
- 5月6日 県師会総会に出席 盛岡
- 6月10日 マッサージ奉仕 祥風苑・富岡荘
- 10月13日 支部役員会
- 11月18日 忘年会
- 2月22日 支部役員会

30年度も例年通りの活動になってしまいました。何か違う事もやりたいという希望はあるが、思い通りにはならないのが現実です。

次年度も例年通りの活動ができれば良い方だと思います。少数精鋭ですが協力しながらやっていきたいと思います。

宮古・釜石支部

支部長 佐々木 きみ子

特に活動はしていませんが、釜石ボランティア活動に積極的に参加しました。又、県師会総会、研修会、東鍼連等の行事に参加協力しました。

一関支部

支部長 舘下 正則

皆さん、いかがお過ごしですか。昨年の夏は猛暑、地震や大雨による大洪水と災害の多い年でした。さて、一関支部の会員動向ですが、平成30年3月末をもって会員の高嶋道春さんが退会されました。現在の会員は10名となり、会の将来を考えさせられます。

活動報告

- 4月8日 定期総会「福祉センター」9名出席
- 5月13日 第1回慰問治療「関生園、福光園、ケアサポート」10名30名施術
- 7月8日 第2回慰問治療「関生園、ケアサポート」8名で29名施術
- 9月23日 第37回一関国際ハーフマラソン大会マッサージボランティア、11名で68名
施術

その他 県師会の総会、東鍼連大会、県民公開セミナー、生涯研修会等への参加協力をしました。

奥州支部

支部長 千田 節雄

奥州支部はこの1年、小澤信男氏の黄綬褒章受章で大いに活気づきました。当支部でも視

福協合同での受章祝賀会を開催いたしました。

また、金ヶ崎町でも自治会など四団体合同での祝賀会を設け、100名を超す参加でお祝いをしました。改めて黄綬褒章受章おめでとうございます！

活動報告

- 4月8日 菊水において総会開催
- 6月24日 午後3時より第1回役員会開催
- 8月5日 小澤信男氏黄綬褒章祝賀会を視福協と合同で開催
- 8月19日 金ヶ崎町藤巻自治会を含む四団体で小澤信男氏の祝賀会があり、小野田、千田が出席
- 9月30日 水沢ボランティアフェスティバルにおいてマッサージ奉仕を実施し、7名参加で42名の施術を行った
- 12月9日 第2回役員会開催
- 1月20日 視福協合同で新年祝賀会開催
- 3月3日 第3回役員会開催

花北・遠野支部

支部長 高橋 則夫

今年度の支部としての活動は特に何もしていません。ただ、「新年早々の県師会第3回執行部委員会と新年会を今年は花北&遠野支部主管で行いたいので支部長として対応してほしい」と会長に頼まれ、その準備を色々行いました。

しかも会長から出された希望というのは、「宿泊費が1万円程度の温泉で会議が出来るスペースも確保してほしい。また、執行部会議をしている時に一般会員がカラオケなどで楽しめるような配慮もしてほしい」という難しいものでした。

「今時1万円で泊まれる温泉なんて…」

そこで知り合いの温泉ホテル社長に頼み込んでこれらの条件を全部飲んでもらい、花巻駅からの送迎バスも手配してもらいました。

当日1月13日（日）昼、役員9人と一般会員10人が「ガーデンリゾート悠（はるか）の湯 風の季（とき）」に集合。2時から5時までの会議の間、一般会員はカラオケルームへ。ひと風呂浴びて6時からカラオケ付きの新年会。その後はスナックでカラオケ。皆さん存分に楽しまれたようでした。

私は家が近かったことや、所用があったため、その夜は泊まらずに失礼しましたが、泊まられた皆さんは2時過ぎまで盛り上がったとのことでした。

参加した皆さんからは、「とても良い会だった」とお褒めの電話をいただき、「やれやれ」と私も肩の荷を下ろした思いでした。

ところが、それから二日ほどして会長から電話があり、「参加した人ほとんどがインフルエンザA型にかかりダウンしているとのこと。私は大丈夫だったのですが、参加した19人中15人が罹患したとのことでした。

「来年度からの会費値上げの話し合いをしたので会員の不満が形として表われたのかなあ…」と冗談交じり。そういう会長の声も風邪声。

その後、この会議は「呪われた執行部会議」という名前を拝命したとか。皆さん花巻からインフルをお持ち帰りいただいたようです。

冗談はともかく今年のインフルエンザ流行は爆発的でした。丁度そこに新年会がはまってしまったということなのでしょう。来年は釜石、宮古支部主管で行われるとのこと。宿泊候補は津波で破壊されたにもかかわらず、女将さんが頑張って早期再建した「浜べの料理宿「宝来館」とのことです。役員の人たちと一般会員との交流の場として有意義で楽しいひと時ですので、是非皆さんも参加して下さい。

盛岡支部

支部長 佐藤 明

県師会会員の皆さんこんにちは。今年の冬は例年より雪も少なく、特に道路が乾いていたので皆さんも行動が楽だったのではないのでしょうか？

さて、盛岡支部独自の活動として、マッサージボランティアを2回実施し、会員参加数のべ15名で90名に施術しました。

また、盛岡市からの委託事業である、健康づくりマッサージ等指導教室は年間86回行い、市民の健康保持増進と介護予防に一定の成果を果たしました。

次に、盛岡支部情報メールを22回配信して、生涯研修会の参加者募集や行事のお知らせと活動報告を行ってきました。

それから、県民公開セミナー、定期総会や生涯研修会に多くの会員に参加していただき県師会事業へ積極的な協力ができたことは良かったと思います。

続いて活動日誌による報告です。

- 4月8日 支部定例総会開催。役員改選があり、佐藤明が再選され、平子利男（たいことしお）監事、姜奈希（かんなひ）監事が再選された。（岩手マッサージセンター）
- 5月6日 県師会第77回定時総会に22名出席と委任状は20名。法人化40周年式典において7名が在籍25年以上として会長表彰された。（岩手教育会館）
- 6月3日 岩手県師会第1回生涯研修会が開催され、会員18名が参加した。（アイーナ）
- 7月1日・2日 東鍼連宮城大会が開催され、会員11名が参加。（仙台サンプラザホテル）
- 8月5日 鍼灸マッサージ県民公開セミナー2018が開催され会員20名参加。（アイーナ）
- 9月9日 三団体研修会が開催され、会員22名が参加した。（盛岡視覚支援学校）
- 9月23日 一関国際ハーフマラソン大会が開催され、スポーツボランティアに会員の大澤睦子さんと高橋康浩さんが参加した。（一関市総合体育館）
- 9月29日・30日 日本あんまマッサージ指圧師会東北研修会が開催され、会員12名が参加した。（ホテル紫苑）
- 10月20日～21日 東鍼連福島交流会に会員3名参加。（いわき市 新舞子ハイツ）
- 10月21日 矢巾町健康福祉まつりにマッサージボランティアとして参加。会員6名と協力員1名で79名に施術。（矢巾町保健福祉センター）
- 11月18日 西厨川老人福祉センターにおいてマッサージボランティアに参加。会員9名で11名施術。（同センター）
- 11月25日 第7回生涯研修会が開催され、会員20名が参加。（アイーナ）

12月8日 忘年会開催。会員18名と家族1名参加。(うま舎)

2月17日 第8回生涯研修会が開催され、会員12名が参加。(アイーナ)

その他に、支部役員会議を4回開催し、健康づくりマッサージ等指導教室指導員のミーティングを4回実施しました。

次に会員動向ですが、新入会者は井上貴奈(たかな)さん、中村博行さんの2名が入会されました。皆さんどうぞ宜しくお願い致します。

退会者は、佐々木金男さんと佐々木厚男さんが3月末で退会されました。

佐々木金男さんは安定した統率力で長年にわたり支部長を務められ、その後、平成29年度まで顧問としての確かな助言やご指導をいただくなど、支部の運営に多大な貢献をされました。盛岡支部を代表し、この場をお借りし感謝と敬意を表したいと思います。

結びに、4月1日現在60名の会員が所属しています。

国家免許を持つ鍼灸マッサージ師として誇りを持ち、盛岡支部並びに岩手県師会の発展をめざし新年度も活動したいと思います。

二戸支部

支部長、古館 吉弘

平成という元号も4月30日をもって終わりとなります。今年は雪の少ない冬だったけれど、朝と日中の温度差が激し過ぎて体調管理が大変でした。インフルエンザが猛威を振るい、1月に県師会の執行部会議に出席したほとんどの人がインフルエンザに感染してしまいました。

30年度を振り返ってみますと、全国的に災害の多い年でもありました。幸いにして岩手県はそれほどでもなく過ごすことができましたが東日本大震災以降あちこちで自然災害が起きているように感じます。天皇陛下が、「平成の時代は自然災害が多かった。でも、戦争のない平和な30年間でもあった」とお話されておりました。しかし、世界に目を向けると、まだ戦争をしている国もあります。早く平和な世界になってほしいものです。

さて、二戸支部は会員5人で活動しております。4月14日には総会が行われ、役員改選も行いましたが会員数が少ないので、結局支部長再選となりました。

活動としては、県総会参加、県民公開セミナー参加だけとなりました。以前のようにボランティア活動などの行事もできればよいのですが、県北地方は高齢化が急速に進んでおり、患者数も激減しているので、仕事の継続も心配です。

5月からは新元号、新しい時代の幕開けです。あやかって頑張っていきたいと思っております。

带状疱疹痛に対する鍼灸施術

藤沼 敦子

【序論】

本症例は、週に一度不妊治療で通院している過程で発症した带状疱疹痛である。主訴の治療と共に疼痛緩和を目的に施術をし、2回の治療にて緩解に至った症例である。

【症例】

39歳 女性

【初診】

平成23年2月2日

【主訴】

左肩甲骨付近の痛み

【現病歴】

平成23年1月25日に胸部左側に発疹が出現、翌日には水疱が発現した。2日後（月）に近位の病院を受診したところ、医師から「带状疱疹」と診断され、抗ウイルス薬と鎮痛薬（ボルタレン）を処方された。本治療院への来院は発症後8日目である。発疹部位（左第1~4胸椎付近）はすでに消失していたが、左脇下と肩甲骨付近に痛みがあり、痛みのため夜満足に眠ることができない。

【診察所見】

左肩甲骨付近の皮膚に発赤があり、左第2・3胸椎付近と脇下に疼痛がある。

【治療・経過】

長野式治療により扁桃処置として曲池、胃の気処置、全身の調整のために復溜・兪府を仰臥位にて15分置鍼後、疼痛緩和を目的に長野式気水穴処置を行った。左陽輔（火穴）の圧痛が強く左脇下の痛みが酷いということで足少陽胆経、肩付近の痛みを手少陽三焦経、前胸部の痛みを手太陰肺経の炎症と捉え、肺経の金穴（経渠）、水穴（尺沢）に1寸-0番で置鍼。胆経と三焦経は左陽輔、左支溝の圧痛が消失するまで左侠溪と左足竅陰、左関衝と左液門に糸状灸を施灸した。その時点で一番痛みの強かった左脇下の痛みは軽減した。

次に腹臥位にて、左第2・3胸椎棘突起の脊際（脊椎の際）に刺鍼と椎間灸（棘突起間）5壮。左肩甲骨上の発赤部分を囲むように2箇所斜刺にて置鍼。治療終了後、患者が「今夜は寝れそうです」と言われた。

2回目（2月9日・発症15日目）

痛みは前回の治療後ほぼなくなり、脇の下の痛みが僅かに残る程度。足少陽胆経の火穴に圧痛はなく、左魚際のみ僅かに圧痛が残っていたので、左尺沢、左経渠に灸。肩甲骨の皮膚上の発赤もなく痛みも消失したとのことで带状疱疹痛に対する治療は終了。

【考察】

带状疱疹による痛みは灼熱痛や電撃痛などがあり夜間痛も出現するが、本症例は不妊治療に対して免疫機能を賦活する治療を常に行っていたことが功を奏し疼痛期間が短縮したと考えられる。消炎作用を目的として行った処置が劇的に痛みを除去できたことからみて、带状疱疹痛には鍼灸施術は効果があると推察される。

プロフィール

平成18年3月31日 北東北東洋医療専門学校 鍼灸学科 卒業

平成18年4月14日 はり師・きゅう師免許取得

平成19年5月1日 ありす鍼灸治療院開業

編集後記

広報部長 松下 優子

暖冬だった冬も去り、おだやかな春の訪れを期待していたら、何度も何度もなごり雪が降ります。このような年は結構遅くまで雪が降ったり、冷夏になったりして、お米が不作だったりします。この節目の時が、平安に過ぎて行くことを願うばかりです。

さて平成最後の会報をお届けします。原稿を快く書いてくださった皆さん本当にありがとうございました。これは皆さんの原稿によって構成されています。編集の都合上、原文と異なるところもありますが、どうぞご了承くださいませようお願いいたします。

皆さんの報告等を読みますと、年々災害が全国的に増加傾向にあります。また各支部の活動も高齢化、少人数化で苦戦している有様が手に取るようにわかります。しかし一方では東鍼連、同交流会参加者の増加、県民セミナーへの協力等、県師会の団結も見られます。

また、佐々木会長も全鍼の会議に出席の際には私達を代表して沢山発言なさっています。この会報にはそのような細かい内容が掲載されております。どうぞ最後まで読んでくださいますようお願いいたします。

最後にいつもながら、佐々木会長、佐藤副会長には多大なるお力添えをいただきました。本当にありがとうございました。

奥付

一般社団法人 岩手県鍼灸マッサージ師会
平成30年度 会報「東洋療法いわて」第51号
令和元年5月1日発行
発行人 会長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地
電話 0195-77-2057
編集責任 広報部長 松下 優子
〒020-0667 滝沢市鶉飼向新田7番地-227
電話 019-687-2405
事務所（事務局）会長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地
電話 0195-77-2057
ホームページ <http://iwateken-harikyumasikai.jimdo.com/>
郵便振替 岩手県鍼灸マッサージ師会 02360-9-19833
印刷所 有限会社 浜印刷
〒020-0667 滝沢市鶉飼洞畑 56-29
電話 019-654-3569

鍼電極低周波治療器

Lasper-A・MC

エース エムシー
ラスパーA・MC

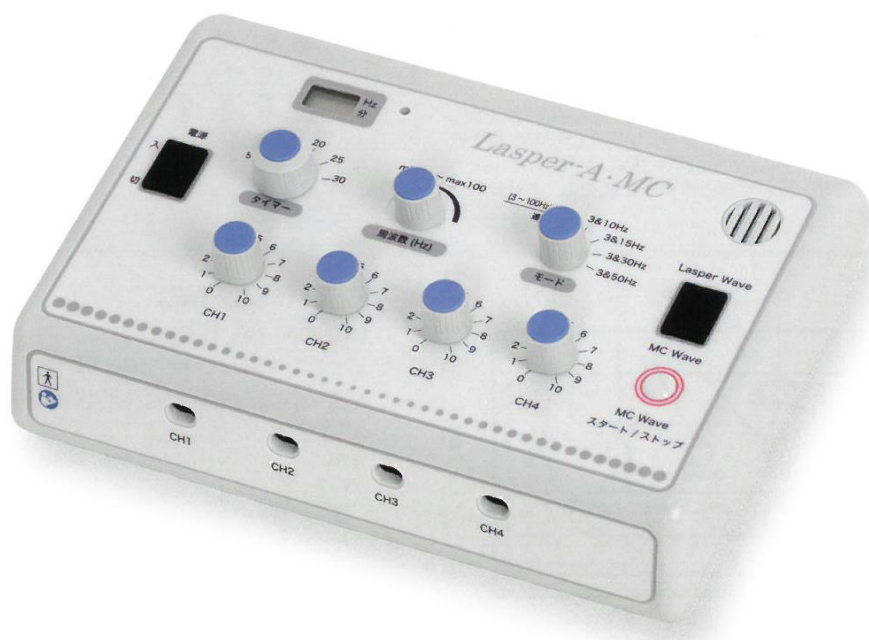
鍼電極低周波治療器

+

マイクロカレント

マイクロカレントは実績のデュアルクロス通電方式

この1台で鍼治療は「新たな時代」を迎える



KANAKEN

KANAHOT MOIST

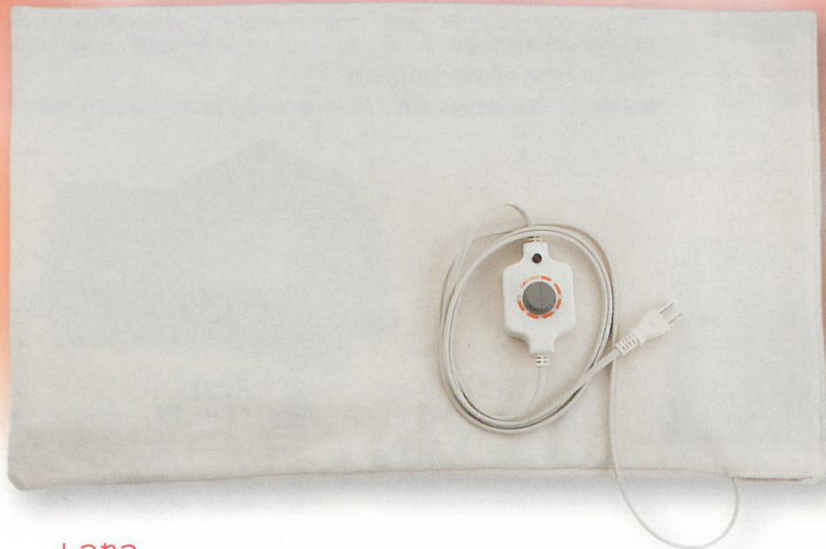
湿熱+セラミック温熱により血行をよくする

湿熱感覚ホットパック

カナホット モイスト

日本製

浸みこむような
熱がきます。



しつねつ
“湿熱感”を持続させる特殊カバーを使用。

湿熱の特殊カバー

冷えると空気中の水分を吸収する「カナホット・モイストのオリジナルカバー」。本体に内蔵ヒーターにより本体の温度が上がると、カバーに含まれた水分が発散され、体の芯にジワジワ浸み込むような気持ちよい湿熱を体感できます。

※水洗いはできません。ドライクリーニング専用です。

赤外線を出すセラミック板

温度が上がるとパック内に装着されたセラミック板により、気持ちよい波長の赤外線温熱が放射されます。

大型パックであらゆる曲線にフィット

大型パックで背部や腹部、膝関節、腕、肩等あらゆる曲線にフィットできる強度に設計。本体サイズは約380mm×620mmです。

最大80Wの省エネ設計

電熱器具は消費電力が心配と思われませんが、これだけの熱量を80Wで効率よく伝えるのがカナホットモイストの特長です。

カナホットモイスト

KB-248 49,500円+税

〔クラスⅡ/管理〕

医療機器承認番号：16300BZZ01121000

- 定格電圧：AC100V (50/60Hz)
- 消費電力：80W
- 時間設定：60分タイマー（ゼンマイ式）
- 温度設定：40℃以上70℃以下（自動調整）
- 寸法重量：本体サイズ 約380mm×620mm
重さ 約900g
カバーのサイズ 約430mm×730mm
重さ 約500g
- 安全装置：本体に内蔵サーモスタット
- 一般的名称：家庭用温熱治療器
- JMDNコード：71017000
- 内容物：本体（パック）、電源スイッチ（60分タイマー）、スペアカバーを含む2枚、取扱説明書（保証書添付）、添付文書、ユーザー登録はがき
- 日本製

KANAKEN